山田俊藏著

近世事情三篇

從慶應元年
至明治元年七月

五、

210.61
Y219k

人角豐次郎著

560
3
3

明治七年八月刊行

近世事情

山田氏
大角氏 藏版

国立公文書館
27.12.19

284664

近世事情三篇綱領目錄

卷之五

慶應元年ヨリ明治元年ニ至ルマテ四年間ノ
開化進歩ニ關スル紀事
尾張矣ノ大坂ニ凱旋スル事
高杉晉作ノ兵ヲ起ス事
奇兵隊ヲ編伍スル事
薩長兩藩ノ怨ヲ解ク事
西鄉隆盛ノ大島三右衛門ト稱スル事
征長ノ幕令

560
3
3

近世事情三篇綱領條目

卷之五

慶應元年ヨリ明治元年ニ至ルマテ四年間ノ
開化進歩ニ關スル紀事
尾張侯ノ大坂ニ凱旋スル事
高杉晋作ノ兵ヲ起ス事
奇兵隊ヲ編伍スル事
薩長兩藩ノ怨ヲ解ク事
西郷隆盛ノ大島三右衛門ト稱スル事
征長ノ幕令

將軍大坂城ニ至ル事
各國公使兵庫ノ開港ヲ還ル事
將軍ノ辭表
薩人ノ奏表
永井氏西下シテ長州矣ヲ詰ル事
朝紳長州ノ處分ヲ論スル事
長州ノ脫徒備中倉敷ヲ侵ス事
長人ノ藝藩ニ贈ル書
小笠原壹岐守ノ長藩ニ傳フル幕令
長人奮激戰志ヲ決スル事

幕軍大舉長州ニ逼ル事
大島ノ第一戰
尾瀨川ノ役
石州盡ク長人ノ所有トナル事
佛人長藩ヲ劫ス事
大野ノ兵長兵利アラサル事
伯耆守ノ明斷
薩藩撓ヲ三十六藩ニ傳フル事
將軍大坂ニ薨スル事
一橋慶喜宗家ヲ嗣ク事

使ヲ魯國ニ遣リ樺太ノ境ヲ議スル事
慶喜征夷大將軍ニ任セラルヽ事
孝明天皇ノ崩スル事
三兵隊ノ原由
將軍兵庫開港ヲ請フ上表
兵庫開港ヲ許ス朝令
土佐老侯ノ歸政ヲ將軍ニ勸ムル上書
土藩後藤象次郎等遊說ノ數件
將軍歸政ノ奏表
朝紳德川家ノ祿ヲ收ノント議スル事

攝政幕府ヲ廢セ摧リ三職ヲ置ク事
德川內府意變シ再ヒ政ヲ執ラントヲ請フ事
內府大坂ニ下ル事
伊地知氏等ノ籌畧遺策ナキ事
芝薩州邸ノ擾亂
尾越兩侯內府ヲ說ク事
內府兵ヲ率ヒ京師ヲ要セントスル事
伏見鳥羽ノ役
仁和寺宮總督トナル事
石川厚狹介ノ勇武ナル事

津藩反正スル事
内府會桑藩主等東走スル事
有栖川宮征東總督トナル事
土備人佛人ヲ殺害スル事
各國公使局外中立ノ令ヲ布ク事
外國事務局ヲ置ク事
公使參朝ノ期ヲ通ル事
浪士英公使ヲ要殺セントシテ果サヾル事
會人外島等ノ大義ヲ唱フル事
大久保參與ノ建論

萬機公論ニ決セントノ誓文
尾藩大義親ヲ滅ストノ令ヲ下ス事
慶喜恭順東台ニ屏居スル事
征東ノ第一戰
勝安房西鄉氏ニ接スル事
蝦夷開拓ヲ策問スル事
勅使江戸城ニ入リ慶喜水戸ニ屏居スル事
結城藩小幡兵馬等大義ヲ唱フル事
賊將近藤勇ノ執ハル、事
宇都宮賊ノ有トナル事

關宿ノ役官軍捷利ヲ獲ル事
河田佐久馬ノ勇武絶倫ナル事
田安亀之助宗家ヲ紹ク事
彰義隊上野ニ拠ル事
錦切レノ事
仙米両侯會津侯ヲ説諭スル事
秋田孤立スルノ事
世良参謀等ノ明斷
諸道ノ官軍會津ニ進撃スル事
白川城官軍ノ有トナル事
上野ノ役
林昌之助画根ニ拠ル事
長岡ノ役
輪王寺宮會津ヨリ仙臺ニ走ル事
平城官軍ノ取ル所トナル事
官軍賊兵ノ為ニ欺カル事
参謀山縣狂介ノ勇斷
賊將ノ會議スル事
仙米南庄四藩屹然官軍ニ抗スル事
加陽宮官位ヲ奪ハルヽ事

關宿ノ役官軍捷利ヲ獲ル事
河田佐久馬ノ勇武絶倫ノ事
田安龜之助宗家ヲ紹ク事
彰義隊上野ニ拠ル事
錦切レノ事
仙米両侯會津侯ヲ説諭スル事
秋田孤立スルノ事
世良參謀等ノ明斷
諸道ノ官軍會津ニ進擊スル事
白川城官軍ノ有トカル事
上野ノ役
林昌之助画根ニ拠ル事
長岡ノ役
輪王寺宮會津ヨリ仙臺ニ走ル事
平城官軍ノ取ル所トナル事
官軍賊兵ノ為ニ欺カル事
參謀山縣狂介ノ勇斷
賊將ノ會議スル事
仙米南庄四藩屹然官軍ニ抗スル事
加陽宮官位ヲ奪ハルヽ事

卷之六

明治元年ヨリ同二年ニ至ルマテ二年間ノ紀事上ニ同シ
援本釜次郎等品海ヲ脱スル事
伊地知板垣氏等ノ善謀
官軍會津ニ攻入スル事
勲功式
改元ノ令
新タニ七官ヲ置ク事
會津叛父子降伏シテ歎願ヲ出ダス事

伊地知氏ノ大久保氏ニ與ヲル書
東京ニ臨幸アル事
北地ノ第一戰
賊兵函館ヲ奪フ事
藩治職制
松前藩賊使ヲ斬ル事
賊兵福山城ヲ陷ル事
殊旨ノ詔
賊兵ノ奥羽諸藩ニ移スル文
賊兵江刺ヲ奪フ事

開陽丸破砕スル事
三上超順ノ勇進屈セザル事
各國ニ局外中立ノ令ヲ止メラルル書
陸奥ヲ五國ニ分チ出羽ヲ二國ニ分ツ事
公議所ノ設ケル令
賊兵祝砲一百零一ヲ發スル事
榎本等英佛ノ船將ニ托スル奏表
賊兵入札レタル首長ヲ公撰スル事
甲鐵艦ノ來歷
横井平四郎要殺セラル事
薩長土肥四藩版籍奉還ノ上書
賊兵ノ議ヲ決スル事
加茂ニ行幸アル事
賊艦田天丸佯テ甲鐵艦ヲ衝ク事
東京ニ再幸アル事
太政官札ヲ發行スル事
官軍北地ノ賊兵ヲ討ント品海ヲ發スル事
官軍江刺ヲ拔ク事
十六時間砲聲ノ止マザル猛戰
松前城官軍ノ有トナル事

木古内ノ戦
函館港内ノ水戦
大原中納言ノ建言
矢不來ノ役

巻之七

明治二年五月ヨリ同十二月ニ至ルマテ八箇月間ノ紀事上ニ同シ
森本弘策ノ怯懦ナル事
無人ノ千代田形有人ノ甲鐵ヲ避ケシムル事

田天艦浮砲臺トナル事
函館港ノ挙一戦
朝陽艦沈没スル事
賊兵盡ク軍艦ヲ失フ事
新道ノ役
函館病院ノ患者ガ榎本ニ與ル書
榎本氏ノ咎書并ニ海律全書ヲ官軍ニ贈ル事
千代ケ岡ノ猛戦
中島三郎助ノ小傳

参謀等酒五樽ヲ榎本ニ贈リ其海律全書ヲ寄セラルヽヲ謝スル事

齊藤辰吉ノ激答スル事

榎本等降伏ヲ決レ衆ヲ諭ス事

北地盡ク平ク事

三箇條ノ垂問アル事

外國交際及ヒ會計ノ下問

明治二年歳入出會計表

前田宰相ノ建論

公卿大名ヲ廢レ華族ト稱スル事

府藩縣三治一致ノ制度ヲ立ツル事

版籍奉還出願及ヒ命ゼラルヽ諸藩

通商司ノ推

島津侯ノ建言

新タニ官制ヲ定ムル事

長州侯父子ノ建言

蝦夷ヲ北海道トナシ十一ヶ國ニ分ツ事

彈正臺ノ彈例

大ニ戊辰巳ノ勳功ヲ賞スル事

大ニ宥典ヲ行フ事

米國公使參朝ス
祿制
東伏見宮ノ辭表
吉井從四位ノ辭表

通計六十二章

近世事情三篇目錄終

慶應元年
尾張大納言
大阪ニ凱旋
ス

山田俊藏著
近世事情三篇卷五
大角豐治郎著

慶應元年ヨリ明治元年ニ至ルマテ四年間ノ
開化進歩ニ關スル紀事

慶應元年正月總督尾張大納言長防追討ノ師ヲ班
ヘシ大坂ニ還ル去年七月長兵ノ敗走スルヤ道路
或ハ其軍令狀ヲ獲ルニ即毛利父子ノ印信ヲ署シ
テ國司傳讓、皆大ニ虚ヒナリト之ヲ官ニ上ル朝
議乃チ毛利氏ノ罪ヲ鳴ラン目シテヲ朝敵トナシ父
子ノ官爵ノ削リ幕府ニ勅シテ之ヲ追討シ且其罪
ヲ天下ニ掲示シ以テ民心ヲ定ム幕府既ニ勅ヲ奉

レ撤ヲ列藩ニ傳ヘ向フ所ノ部署ス立花飛騨守等
九州ヨリ松平相模守等山陰道ヨリ松平備前守等
山陽道ヨリ松平阿波守等四國ヨリ皆令ヲ待テ發
ス總督尾張大納言副將松平越前守等中軍ヲ率ヒ
松平三河守等後軍ヲ率ヒ板倉周防守等游軍ヲ率
ヒ皆期ヲ刻シテ藝州ニ臨ントス而シテ將軍モ亦
將ニ大兵ヲ擁シ之ニ繼ントスレバ遠近肅然タリ
十月十二日總督副將等入朝行ヲ告ケ尋テ皆京師
ヲ發シ十一月十六日廣嶋ニ達シ將ニ十八日ヲ以
テ進攻セント令ヲ諸軍ニ傳ヘテ戰期ヲ戒ム而シ

テ初征討ノ迫ルヤ毛利父子罪ヲ恨レヲ屏居シ恭
謹命ヲ待ツ支藩吉川監物等屢征期ヲ緩クシント哀
訴ス報命未ダ下ラズ藩議遂ニ益田右衛門福原越
後國司信濃以下首謀十餘人ヲ刑シ監物乃チ三國
老ノ首ヲ獻リ躬ラ來テ中軍ニ獻ス時ニ總督未ダ
至ラズ尾藩成瀬隼人正幕吏戸川鉾三郎已ニ廣嶋
ニアリ乃チ藝藩淺野豊後等ト國泰寺ニ莅ンテ首
ヲ檢シ總督ノ至ルヲ待テ之ヲ奉シ尋テ之ヲ監物
ニ賜フ是ニ於テ總督令ヲ下ダシ戰期ヲ止メ大膳
以下伏罪ノ誓書ヲ徵シ裏ニ長州ニ脫走セシ三條

實美等ヲ處分ス是ヨリ先ニ錦小路頼徳病テ死シ澤宣嘉出テ、他邦ニ寓スレバ其長藩ニアルモノ乃五人因テ之ヲ薩州筑前肥前肥後久留米五藩ニ分置シ狀ヲ具シテ朝廷及ヒ幕府ニ奏報シ是ニ至テ大阪ニ凱旋スレバ將軍以為防長既ニ鎮定スト乃チ命シテ大兵ヲ止メ將ニ大阪ニ赴キ以テ其局ヲ結ハントス既ニシテ藩士高杉晋作兵ヲ國中ニ起セバ二國ノ物情猶騒然トシテ實ニ未ダ蕩平セザルナリ是ヨリ先ニ甲子開ヲ犯スノ變長藩ノ其謀ニ與カラザルモノ以テ國ヲ誤ルトナシ乃チ益田福

高杉晋作兵ヲ起ス

原國司及ヒ當時事ヲ用ユルモノヲ執ヘ或ハ之ヲ禁錮シ或ハ之ヲ獄ニ下クシテ藩主父子ヲ寺院ニ幽ス問罪ノ師至ルニ及ンデ則又砲臺ヲ毀チ堡砦ヲ撤シ將ニ三國老及ヒ獄ニアル十三人ヲ刑シ首ヲ軍門ニ効シ以テ罪ヲ贖ハントス而シテ藩内往々其擧ニ服セザルモノアレバ其罪ヲ贖ハントスルモノヲ罵リ目シテ俗論黨トナス俗黨大ニ憲リ乃チ其罵ルモノヲ捕ヘ亦獄ニ下ダシ晋作ニ連及ス晋作脱シテ筑前ニ走リ憤激禁ヘザルガ三帥ノ殺サルヽヲ聞キ益憤リ俗黨ヲ討テ國弊ヲ革メン

俗論黨敗總ス

ト欲シ乃チ赤馬關ニ還リ檄ヲ傳ヘ兵ヲ募ル奇兵隊ノ潛匿スルモノ翕然四集衆凡五百人兵勢大ニ振フ晉作乃チ太田市之進山縣狂介等ト相謀リ赤馬關ノ藩廳ヲ襲フテ彈藥兵器ヲ奪ヒ軍資ヲ土豪ニ募リ糧伏ヲ具ヘ兵ヲ率ヒテ將ニ萩城ニ逼ラントス俗黨大ニ驚キ急ニ使ヲ遣レテ變ヲ幕府ニ告ケ復タ藩主ヲ城内ニ還シ挾シテ以テ令ヲ藩内ニ下ダシ衣食ヲ奇兵ニ賣ルヲ禁シ遂ニ國老栗屋某ヲシテ兵ニ將トシ之ヲ擊タシム晉作等即チ邀ヘ戰フテ大ニ俗黨ヲ破ル俗黨又新タニ兵ヲ出タシ

晉作等ノ決議

連戰ヘルコト三日終ニ利アラス退テ萩城ヲ保ツ亦逼攻セラレ殆ド支ヘザラントス或ル人間ニ居テ和ヲ講スレバ晉作等乃チ俗黨ノ首謀數人ヲ殺シ之ヲ軍門ニ徇ヘ其餘ヲ宥ス是ニ於テ一藩方向ヲ定メ闔藩ノ論一ニ歸ス晉作等因テ藩主ヲ防州山口ニ奉シ衆ヲ會シ相議シテ曰幕府我藩ヲ罪シテ國老以下ノ首ヲ得ル未タ慊ラズ而シテ今我等ノ事ヲ擧グル亦其怒ヲ激スルニ足レバ則大軍ノ至ル屈指待ツベシ故ニ請フ諸君ト力戰シテ以テ死者ノ寃魂ヲ慰メン諸君以テ何如トナス衆乃チ聲

ヲ齊クシテ曰生死唯タ命ノマヽニセント是ニ至テ藩論益定ル而シテ此奇兵隊ヲ編伍セルハ初癸亥ノ歳毛利家攘夷ノ擧ヲ謀ルヤ晋作奮然トシテ曰肉食ノ徒皆事ニ任ヘズ門地ノ弊矯メザルベカラズト乃チ藩主ニ請ヒ貴賤ヲ擇ハズ士庶ヲ問ハズ凡強壯用ユベキモノニ厚ク俸禄ヲ給シ盡ク之ヲ行伍ニ収ム其兵強悍蹄シテ奇兵隊ト稱ス而シテ自ラ之ガ隊長トナリ其兵ヲ馭スル賞罰嚴正ニシテ號令肅明ナレバ凶險亡賴ノ徒ト雖皆其約束ニ從ヒ之ガ用ヲナスヲ樂ム已ニシテ隊長久坂義

助入江九一等京師ノ役ニ戦死シ尋テ晋作モ脱走スレバ部下勢ヲ失ヒ伏匿時ヲ待チケルガ是ニ至テ晋作ノ撥ヲ得レバ四方響ノ如ク應ズト云是月長藩薩藩ト怨ヲ釋ク初甲子京師ノ變ニ薩藩力ヲ極メテ長兵ヲ擊ナ多ク其良ヲ捕ヘケルガ是ニ至テ一藩相議シテ曰方今ノ務ハ敵愾ヲ一ニシテ以テ皇國ヲ護ルニアリ徒ニ兵ヲ邦内ニ動ガシ區々鉄鋼ヲ角ス策ノ得ルモノニアラズト乃長人ノ俘虜ヲ渥遇シ其捕縛ヲ釋キ禮シテ之ヲ還ヘス尋テ藩士西郷隆盛又衆使ヲ長州ニ遣リ好ヲ通ジ和ヲ

長人ノ決議

講ス是ニ於テ長人相議シテ曰蕞爾タル孤城ヲ以テ天下百万ノ兵ニ當ル固ヨリ勝ヲ保ッベカラザルヿ了然タリ然レドモ力竭キ矢盡キテ寧ロ社稷ト共ニ斃レンノミ今ニシテ勢ノ支ヘザルヲ慮リ好ヲ他藩ニ通シ其力ニ頼ヲバ天下後世ノ笑ヲ如何セント斷然之ヲ聽カザラントス或人曰言固ヨリ然リ然レドモ我藩薩藩ト深仇アルニアラズ今薩藩大義ヲ以テ成キヲ行フ而シテ我岐拒納レザル亦之ヲ義ト謂フベカラズ且均ク國恩ニ報ズルナリ其坐シテ亡ヲ待ッヨリ力ヲ盡シテ存ヲ圖ルニ若ガス宜ク厚ク其意ニ報ズベシ適土州ノ人坂本龍馬等長州ニアリ傍ヨリ之ヲ贊成スレバ衆乃チ之ニ從ヒ終ニ和睦ノ議ヲナス是ヨリ両藩ノ交際日ニ密ニシテ朝廷幕府未ダ之ヲ知ラズ而シテ此時朝廷方ニ長藩ノ内變ヲ聞キ之ヲ鎮定セント屢詔シテ將軍ヲ召ス西卿隆盛吉之助ト稱ス初安政年間京攝ノ間ニ遊ヒ頗ル時勢ノ陵遲ヲ憂ヒケルガ井伊中將ノ政ヲ執ルニ當リ去テ本國ニ歸ル其京師ニアル成就院ノ僧月照ト親ミ善シ月照人トナリ慷慨氣節ヲ尚ブ後幕府大ニ天下ノ有志ト唱フ

坂本龍馬

西卿吉之助

月照

ルモノヲ捕ヘ併セテ月照ニ及フ月照即チ身ヲ脱レテ薩州ニ走リ潜カニ西郷氏ニ寄リ具サニ上國ノ景況ヲ語リ相謀テ曰事已ニ此ニ至ル、我輩復タ噍類ナケレバ奸人ノ手ニ死スルヨリ寧ロ西海ヲ踏ンデ自ラ致サント遂ニ夜ニ乗レ相携テ海ニ投ス適月明ニレテ舩ノ来ルアリ舟人變ヲ見テ急ニ之ヲ濟ヘバ両人已ニ瞑目セルガ舟人看護懇ニ到レバ西郷歷ニ甦リ月照終ニ死ス薩藩之ヲ覺リ幕議ヲ憚リテ西郷ヲ大隅ノ大島ニ竄ス西郷是ヨリ先ニ事ヲ以テ大島ニ流サル、コト二度此擧ト併セ

大島三左エ門

二條右大臣老中ヲ責ム

勅詔

三度ナレバトテ自ラ姓名ヲ變シ大島三右衛門ト稱スル後又藩ノ特旨ヲ以テ家ニ還リ藩務ニ攝ス○二月老中松平伯耆守阿部豊後守兵ヲ率ヒテ京師ニ入ル二條右大臣齊敬之ヲ見テ曰屢詔シテ將軍ヲ召スト雖モ卿等表ルハ何ゾヤ伯耆守等荅テ曰常野ノ事措置未ダ了ラズ故ニ一橋氏ヲ迎ンノミ齊敬又曰慶喜將軍ニ代ッテ總督トナリ京攝ヲ守ル將軍豈ニ之ヲ召サンヤト遂ニ豊後守ニ命シ東下シテ將軍ノ入覲ヲ促サシム此時豊後守ノ奉ス勅詔ニ曰屢將軍ノ入朝スルヲ勞フ然レドモ東

征長ノ幕令

尾張侯上書シテ長防再征ノ擧ヲ止メント請フ

懸隔シ事情否塞ス宜ク速ニ西上シテ以テ朕カ望ヲ慰スベシ○三月松平伯耆守ニ詔シテ東下シ又將軍ノ入朝ヲ促ガサシム○四月幕府天下ニ令シテ曰毛利大膳父子過ヲ悔ヒズ更ニ非常ノ計アリト聞ク令將ニ詔ヲ奉シ五月十六日ヲ以テ大擧シ之ヲ征セントス沿道ノ諸矦宜ク東覲ノ期ノ緩メ以テ命ヲ俟ツベシト乃チ圖ヲ按シ向ヲ所ヲ部署シ屢兵ヲ駒場野ニ調シ將軍將ニ親ラ之ヲ部督セントス時ニ尾張大納言上書シ諫メテ曰長藩ノ罪去歲已ニ釋ケリ然ルニ頃者竊ニ聞ク幕下令復タ再征ノ擧アリト慶勝未ダ其何ノ罪ナルヲ知ラズ獨惑フ夫レ天下未ダ其討ツベキヲ言ハズシテ幕下獨之ヲ征セント欲スルハ畧昧無據ノ罪ナリ畧昧無據ノ罪ヲ以テ邊ニ海内ノ兵ヲ動カス慶勝恐ク天下是ヨリ鮮體セントヲ願クハ之ヲ熟計セヨ此時勝安房守モ亦師ノ名ナキヲ諫ム老中等怒テ軍議ヲ沮ムトナシ之ヲ擯斥ス○五月十六日將軍遂ニ江戸ヲ發シ海道ヨリ西上ス尾張大納前軍ヲ率ヒ紀伊中納言後軍ヲ率ヒ井伊掃部頭榊原式部

將軍江戸ヲ發ス

将軍西上ノ儀徙

大輔並ニ先鋒トナリ自餘ノ候伯皆中軍ニ属ス而シテ老中水野和泉守松前伊豆守松平伯耆守松平周防守等皆駕ニ従フ兵凡若干万鼓行シテ西ス大老職酒井雅楽頭及松平陸奥守南部美濃守等命ヲ蒙リテ江戸城ニ留守ス〇閏五月二十二日将軍京師ニ入リ即日入覲ス帝之ニ詔シテ曰朕慶親父子ヲ召ス若シ来ラバ汝之ヲ按セヨ来ラザレバ汝之ヲ討セヨ朕列藩ヲ召シテ京攝ニアリ汝衆ニ詢リ宜キニ適ヒ奏シテ之ヲ處セヨ〇二十六日将軍大坂城ニ至ル尋テ朝廷一橋慶喜松平容保ニ詔シテ

征西ノ勅裁

将軍大坂城ニ至ル

久雨行人ヲ遮ク

大阪ニ往キ将軍ヲ輔ケテ事ヲ視セシム初大旆ノ發スル将士各日ヲ分ツテ遮進シ以テ雑踏ニ防ク而シテ時方ニ久雨河水漲漫シ往来通セザレバ前行尚遍ルニ後隊已ニ沓リ至リ比驛墟咽シ衆大ニ倦苦ス斯クテ最後ニ江戸ヲ發スルモノハ五旬ヲ經テ大阪ニ達スルヲ得ルト云〇九月十六日将軍復タ京師ニ入ル〇十七日天使二條城ニ臨ム〇二十二日将軍入朝シ翌日復タ大坂ニ還ル時ニ各國公使横濱ヨリ航シテ攝海ニ入リ請フ所アリト稱ス老中等其京師ニ近ツクヲ憚リ苦諭之ヲ止ムレ

各國公使兵庫ノ開港ヲ迫ル

ドモ敢テ聽カズ遂ニ兵庫ニ入リ佛公使書ヲ幕府ニ上テ曰方今貴國ノ形勢之ヲ上ニシテハ獻慮定マラズ之ヲ下ニシテハ列藩服セズ此二ツノモノハ實ニ國家ノ大禍ナリ嚮ニ政府大ニ宇内ノ勢ヲ察シ假リニ條約ヲ各國ニ結フ然レテ政府ト諸侯ト常ニ議論ヲ異ニスレバ内亂絶エズレテ政府之ヲ鎮スル能ハズ既ニ容歲モ各國長官ヲ討ント欲シテ政府之ヲ停ム又暴ニ薩長使ヲ英國ニ遣シ二國ノ港ヲ開クヲ約スルヲ而レテ政府獨鎖港ヲ議ス故ニ今英ノ公使背面タリ之ヲ將軍ニ議セントス是ニ於テ我等事ノ至難ナルヲ憂ヒ之ヲ開老ニ報知シ其守備ヲナサシメ且英人ノ横暴ヲ制セント欲スル然レ𪜈政府モ亦善ク之ヲ視ザレバ則之ヲ率ヒテ共ニ京師ニ入ラザルヲ得ズ之ニ由テ之ヲ觀レバ當今ノ策ハ速ニ勅許ヲ請ヒ條約ヲ堅クスルニ若カズ且夫レ國强ケレバ則天子將軍自ラ貴ク開鎖ノ權モ固ヨリ其掌握ニアリ而レテ其國ヲ强クセント欲スル各國砲艦ノ奇術ヲ傳習セザルベカラズ之ヲ傳習セント欲スル急ニ兵庫港ヲ開キ以テ各國ノ惑ヲ解クニアリ今猶苟且決セザレバ我

將軍ノ辭表

等モ亦直ナニ京師ニ赴キ之ヲ辨ゼシト復ヽメ制諭スベカラズ而シテ征長ノ兵モ日アラズ進戰センストスレバ内外切迫將軍大ニ之ヲ憂ヒ病ト稱シテ職ヲ辭シ一橋中納言ヲシテ軍職ヲ襲カシメント欲シ上表シテ之ヲ請ヒ且ニ意見ヲ建白シ開港勅許ヲ乞ハント疏已ニ具フ○十月二日將軍尾張大納言ヲシテ上書ヲ齎ラシ京師ニ入ラシムレバ詔シテ諸藩ノ意見ヲ問フ之ヲ可トスルモノ多シ上疏ノ畧ニ曰臣不肖叨リニ大任ヲ辱フシ富強ヲ策リ威武ヲ輝カシ上震衷ヲ安ンジ下黎民ヲ濟フ能ハズ心ヲ痛マシメ首ヲ疾マシムルノミ而シテ臣族慶喜久ク職ヲ闕下ニ奉シ多ク事故ヲ更レバ必ズ負荷ニ堪ヘン因ヲ臣將ニ職ヲ慶喜ニ讓ラントス請フ之ヲ視ル猶臣ヲ視ル如クセヨ且臣宇内ノ形勢ヲ察スルニ氣運日ニ開ケ万國往來シ條約ヲ結ヒ有無ヲ通ス獨皇國交際ヲ絶タバ畏避スルモノヽ如シ恐クハ國ヲ持スルノ体ヲアラズ昔年墨使下田ニ入リシ時條約開港ノ事時勢ヲ參酌シ奏上スレバ乃チ允サレ爾來鎖國ノ舊制ヲ變シテ富強ノ基址ヲ開キシガ其後更ニ詔ヲ下ダシテ外交ヲ

拒絶ス然レ𪜈無謀ニレテ輕レク戰フヲ戒ムレバ彼ニ資リテ以テ艦ヲ製シ砲ヲ鑄ルモ亦其長ヲ取リ其術ヲ精フセント欲スルノミ而レテ征西ノ事起リ臣大坂城ニ入ル圖ラザリキ夷艦武庫ニ入リ條約ノ勅許ヲ要請シテ曰若シ命ヲ得ザレバ京師ニ入リテ之ヲ請ハント百方之ヲ卻クレ𪜈聽カズ夫レ我國武ナリト雖我兵強シト雖內憂外患一時ニ湊ル而レテ今各國ト戰フ幸ニレテ之ニ勝ニモ環海皆寇ニレテ兵連リ禍結ブ臣家ノ存亡ハ措テ問ハズ未ダ寶祚ノ安危如何ヲ知ラザレバ則陛下覆育ノ意ニアラズレテ臣モ亦拙御ノ任ヲ失フ願クバ速ニ改約ノ勅ヲ賜ハンコヲ是時一橋中納言松平肥後守小笠原壹岐守等モ亦連署上書レ條約ノ勅許ヲ乞フ〇三日將軍俄カニ大坂ヲ發シ伏見ニ至リ命ヲ得テ東歸セントス在坂ノ諸將士急ヲ視テ爭ヒ從フ道路騷然時ニ一橋中納言京師ニアリ事ヲ聞テ大ニ驚キ即夜松平肥後守松平越中守ト單騎馳セテ伏見ニ赴キ面議スル所アリ已ニレテ還ル〇四日將軍亦京師ニ入ル是日勅レテ老中阿部豊後等ヲ罰リ國邑ニ屏居セ

一橋中納言會津ノ咎等ヲ赦免セント請フ

將軍急ニ東歸セントス

老中阿部豊後等ヲ罰ス

薩人ノ奏表

レム蓋レ外事ヲ以テ讎ヲ獲ルト云時ニ薩人某奏
レテ曰阿部豊後等外夷ト兵庫ニ接見レ十日ヲ刺
レテ兵庫港ヲ開ント欲ス将軍モ亦将ニ入朝レ事
ヲ奏セントス夫レ曩ニ墨夷入港セレヨリ天日明
ヲ失ヒ万姓疾苦ス況ヤ武庫ハ帝都ニ接近レ海内
ノ要港タリ如レ之ヲ許サバ悔ヲ千歳ニ貽サン請
フ議ヲ諸侯ニ下ダレ意見ヲ問テ以テ向背ヲトセ
ン外夷或ハ突入セバ則臣等茂久光ノ命ヲ奉レ
テ以テ京師ニ備ヘ如レ緩急アラバ之ガ先鋒トナ
リ以テ皇國ノ恩ニ報ゼン〇十四日朝廷傳奏飛鳥

三港ノ開港ヲ許レラ仍

兵庫ヲ許ス

井雅典野々宮定功ヲレテ新タニ開港條約ノ勅許
ヲ幕府ニ下ダレ舊約ヲ改メレメ限ルニ横濱宮館
長崎三港ヲ以テレ仍兵庫港ヲ開クヲ許サズ益レ
廷議時勢ヲ斟酌レ止ムヲ得ズ之ヲ許スト云初テ
仰ノ歳幕府私ニ假條約ヲ結ヒレヨリ物論紛々内
亂息マズレテ幕府中立之ヲ一定スルヿ能ハズ天
下ノ變皆是ニ至テ勅允ヲ得レバ
纔ニ衆口ヲ塞クヲ得ル然カモ識者ハ以テ已ニ晩
レトナス〇二十七日將軍入朝ス曩ニ朝廷特ニ將
軍ノ職ヲ辭スルヲ聽サズ優詔レテ之ヲ慰藉レ長

朝廷將軍ノ辭職ヲ許サス

永井氏而下レテ長州攻ノ詰ル

州ノ事ヲ處セン□ヲ促ガセハ是ニ至テ將軍乃チ勅ヲ奉シ疾ヲカメテ復タ事ヲ視ル○十一月三日將軍大坂ニ到リ永井尚志ヲ命シ而シテ長州ノ事ヲ按ゼシム尚志乃チ其境ニ臨ミ問テ曰今春藩人黨ヲ分ツテ相爭フ慶親父子身屏居ニアリシニ親ラ出デヽ之ヲ鎮ス事上報スト雖事實明了ナラズ慶親對テ曰父子天張寺ニ屏居シ令ヲ下ダシテ之ヲ鎮スルノミ曰事已ニ鎮スレバ父子當ニ萩ニ屏居スベシ而シテ山口ニアリ境内ヲ巡行スト□アリヤ曰父子罪ヲ萩ニ待ンコト欲ス而シテ臣民大師ノ來リ征スト聞キ危懼殊ニ甚シ百方之ヲ諭セドモ信ゼザレバ山口ニ屏居セレハ已ムヲ得ザルニ出ツ巡行スルハ則チ之レ無シ曰客冬命シテ山口ノ城ヲ毀タシムト而ルニ再ヒ之ヲ修メ兵器ヲ置クトアリヤ曰山口ハ東照公ノ遺言ア其荒廢ニ任スベカラズ乃草ヲ芟リ地ヲ夷グ既ニシテ之ヲ悔ヒ復タ修メズ兵器ヲ置クハ次シテナシ曰家臣ヲシテ赤馬關ニ至リ外國人ニ接待セシムト聞クアリヤ曰外夷ノ入ル痛憤ニ堪ス然カモ之ニ欠ク之ノ物件ヲ給セザレバ則之ニ寇スナリ故ニ幕吉ヲ奉

レテ無事ヲ謀ルノミ曰令春其有ツ所ノ蒸氣船ヲ
外人ニ典レ村田藤六賣券ニ捺印レ長人モ亦外人
ニ應接ストアリヤ曰我船壞損スレバ之ヲ捨ツ人
アリ海ニ航レヲ之ヲ典ス家臣ニ命ゼテ之ヲ責ル
ニアラズ藩人深ク外夷ヲ憎ム豈ニ之ニ應接セン
ヤ曰多少大小砲ヲ買フトアリヤ曰之レナレ曰五
卿ヲ筑前ニ移レ使ヲ遣レテ之ニ物件ヲ饋リ森寺
大和守来リ謝ストアリヤ曰他藩隨ヲ五卿ニ跟ス
ルモノアリト幕下或ハ誤傳スルノミ大和守来リ
謝スルカ如キ實ニ之レナレ曰淡路監物ヲ大坂ニ

召ス事ニ因テ之ヲ辭ス又支藩及ヒ老臣ヲ召ス期
ヲ剋レテ遷延スルモノハ何ゾヤ曰両人將ニ東セ
ントシテ其臣皆謂フ東セバ必ス死セント遂ニ強テ
留ルノミ斯クテ一問一答毫モ詰ルベキモノナケ
レバ尚志乃チ大坂ニ還ル○二年正月將軍徳川義
比ノ征西ヲ免ルレ更ニ命レテ江城ニ留守セシム
是日二條右大臣近衛前左大臣徳大寺大納言中川
宮山階宮及ヒ慶喜容保定敬勝靜長行等入朝レ長
州ノ罪ヲ議ス時ニ慶喜容保定敬等二條右大臣ト
議レ以為慶親父子ヲ禁錮レ其族ニ命ゼテ家ヲ嗣

ガシメ上下關大島山口ノ地十万石ヲ削リ首謀十人ヲ出ダシ以テ之ヲ處分セント乃チ其議ヲ將軍ニ報ズト云〇二月四日長兵ノ其州南部ニ屯集スルモノ東軍ノ藝州ニアリ逗撓進マズト聞キ潜カニ海路ヨリ本藩ヲ脱ス奇兵隊長其輕躁ヲ憂ヒ之ヲ追ヘドモ及ハズ〇十日拂暁脱徒百五十人備中倉敷ヲ侵掠ス倉敷ハ官地ナリ縣令櫻井久之助適出デ、アラザレバ脱徒乃チ火ヲ官邸ニ縱チ吏民ヲ殘害ス〇十二日脱徒益進ンデ淺尾背ヲ焚掠ス此時人コトニ毛利家ノ徽章ナル一畫三星ヲ着ケ

長州南部ノ兵本藩ヲ脱ス

一畫三星

備中平ク

長人藝藩ヲ贈ル書

標書ヲ袖ニシテ長州奇兵隊ト曰フ土人之ニ兵餽ヲ贈リ以テ侵掠ヲ避ク時ニ東軍ノ藝州ニアルモノ之ヲ聞テ馳セ至リ阿部川ニ於テ其徒ヲ討チ之ヲ走ラス岡山松山等ノ兵モ亦追撃シ數人ヲ斬獲スレバ備中乃チ平ク是ヨリ先ニ長藩書ヲ藝藩ニ贈テ曰寡君父子既ニ罪ヲ謝スルノ實ヲ表シ闔藩日ニ恩裁ヲ望ム哀願一年未ダ台命ヲ得ズ近日ニ至ルニ及ンデ大兵ノ尊藩ニ聚ルモノ日一日ヨリモ衆ケレバ上下危懼シ一藩生ヲ聊セザルガ曩ニ南部屯集ノモノ藩禁ヲ犯シ海路脱走シ其之ク所

ヲ知ラズ顧フニ彼等亦巷説ヲ信シ此謬計ヲナス
ノミ若シ戎ハ尊藩ニ至ラバ幸ニ之ヲ逮捕シ幣藩
ヲシテ罪ヲ累セシムル勿レ藝藩直ナニ之ヲ幕府
ニ報シケルガ是ニ至テ果シテ倉敷ノ變アリ此時
幕府已ニ處分ヲ決シ命ヲ毛利氏ニ下サントス欲シ
老中小笠原壹岐守等ヲシテ教令ヲ奉シ藝州廣嶋
ニ臨ミ以テ大膳等ノ至ルヲ待タシム初幕府長藩
ニ鞫問スル所アリ其國老ヲ大坂ニ召ス容冬十二
月完戸備後介廣嶋ニ來リ一々之ヲ申辨ズレバ幕
府乃チ之ヲ放還シ是ニ至テ更ニ大膳長門興丸三

小笠原壹岐守廣嶋ニ臨ミ毛利家ヲ處分ス

幕府大膳興門興丸其支族四家ヲ大坂ニ召ス至ラズ

壹岐守ノ傳フル幕命

人及ヒ支族毛利左京毛利淡路毛利讃岐吉川監物
四家ヲ召ス皆疾ト稱シテ至ラズ四家各其臣ヲ遣シ
命ヲ受ケシム而シテ備後介大膳等三人ニ代リテ
復タ來ル至レバ則疾ト稱シヲ出デズ強テ之ヲ召
ス亦起タズ○五月朔日壹岐守等特ニ支族四家ノ
臣ヲ國泰寺ニ召シ幕命ヲ傳ヘテ曰大膳父子治馭
道ヲ失ヒ家臣越後等ヲシテ敢テ大法ヲ犯サシム
暴ニ首罪ヲ誅シ恭順罪ヲ謝スト雖失職ノ責既ニ
辞シ難シ且近狀頗ル疑フベキモノアレバ嚴譴ヲ
蒙ラザルベカラザルニ幕府特ニ乃祖ノ功ヲ念ヒ

長州處分ノ三條

完戶備後介等二人ヲ留ヒラル

幕吏備後等二人ヲ囚フ

枉テ宥典ニ從ヒ屢スルニ三事ヲ以テス曰嫡孫興九ヲシテ家ヲ嗣ガシメ輔クルニ支族四家ヲ以テシ大膳父子ハ終身ヲ禁錮スベシ曰封内十万石ヲ削リ餘ハ盡ク與九ニ賜フ曰首惡越後等ノ三家ヲ斷絶シ嗣ヲ存スルコトヲ許サズ因テ本月二十日ヲ刻シテ奉命ノ書ヲ致セヨ既ニシテ四家ノ臣皆命ヲ衛テ國ニ還ル獨完戶備後介小田村素太郎二人命ヲ被リテ抑留セラル○九日大目付永井主水正等士卒ヲ率ヒ國泰寺ニ臨ミ急ニ備後素太郎二人ヲ召ス二人至ラズ乃チ兵ヲ縱ツテ其逆旅ヲ圍ミ

長藩奮激戰志ヲ決ス

就テ二人ヲ擒ニシ藝藩ニ囚ヘ從者ヲシテ盡ク國ニ還ラシム時ニ或ハ倉敷ノ變二人之ヲ倡フト傳フレバ幕吏モ亦頗ル之ヲ疑フ故ニ囚フト云而シテ四臣ノ國ニ歸ルヤ藩主乃チ幕命ヲ國中ニ傳フ一藩忿恨已ニシテ備後介等ノ報亦至レバ藩老屢藝藩ニ因テ之ヲ返サンコトヲ乞フ幕府皆報セザレバ上下大ニ怒リ遂ニ戰意ヲ決シ益防備ヲ修メ以テ幕軍ノ至ルヲ俟ツ時ニ幕府牙營ヲ藝州ニ置キ督將紀伊中納言衆將小笠原壹岐守ニ命シ之ニ臨シテ諸軍ヲ指麾セシメ且毛利氏奉命ノ期ヲ促サ

幕議ヲ不容征長ノ議ヲ決ス

東軍大挙長州ニ迫ル

レム長人故サラニ之ヲ遷延シ居ルヿ三十日誓書竟ニ至ラズ幕議以テ罪決スレヲ之ヲ討セント請フ朝廷之ニ命シテ速ニ其功ヲ奏セレム〇六月朔日東軍遂ニ大擧進ンデ防長ノ四境ニ逼ル三兵隊及ヒ紀州彦根高田諸藩ノ兵藝州口ヨリ鳥取松江濱田福山紀州諸藩ノ兵石州口ヨリ肥後柳川小倉諸藩ノ兵豊前ヨリ皆海陸竝ヒ發スル而シテ小笠原壹岐守小倉ニ赴キ駐テ諸軍ヲ指麾シ紀伊中納言廣嶋ニアリ之ヲ總督シ別ニ三兵隊及ヒ松山藩ノ兵ヲ遣リ海路ヨリ防州大島

薩藩獨出兵セズ

大島ノ衆一戰

郡ニ逼ラレム初東軍ノ藝州ニ臨メルヤ諸藩一令シ兵ヲ出ダシテ之ニ會セレメケルガ薩藩獨師ノ名ナキヲ論シ固ク出兵ヲ辭シ是ニ至テ終ニ會セズ〇八日東軍大島ニ抵リ砲ヲ發シテ村落ヲ焚ク長人故ラニ應セザレバ遂ニ止陸シ過ル所ヲ抄掠ス〇十二日高杉晉作山縣狂介等警ヲ聞キ水軍ヲ率ヒテ大島ニ來リ砲擊數合殺傷相當ル〇十五日長人伏ヲ設クテ戰ヲ挑ミ佯テ走ル東軍勝ニ乘シテ北クルヲ追ヒ大ニ伏兵ノ為ニ擊タレ糧伏ヲ棄テ、走リ夜半ニ至リ各ク敗兵ヲ收テ藝州ニ還ル

東人脆弱軟スルニ足ラズ

尾瀬川ノ役

長人乃チ笑テ曰東軍脆弱其ニ較スルニ足ラズ此役松山ノ隊將佐久間一學戰死ス○十六日藝州口ノ東軍稍進ミ先鋒彦根高田ノ兵將ニ長州ノ國境ニ入ントス長兵乃チ疑兵ヲ張テ之ヲ待ツ既ニシテ東軍前ンデ尾瀬川ニ及フ是ヨリ先ニ長將太田市之進石川小五郎等兵八百ヲ率ヒ潛カニ尾瀬ノ上流ヲ亂リ山ニ倚リ兵ヲ伏セルガ是ニ至テ猝カニ東軍ノ後ヲ襲ヘバ東軍腹背ニ敵ヲ受ケ砲ヲ棄テ、敗走ス長兵勝ニ乘シ藝州ノ封内ニ入リ大竹小方玖波ノ三村ヲ取リ四十八阪ヲ隔テ、險要ヲ扼

長人ノ東軍ニ與フル書

大竹村ノ榜書

守ス是ニ於テ東軍退キ大野ニ陣ス時ニ長人書ヲ彦根高田ノ營ニ贈テ曰卿等甚ダ武事ニ疎ニシテ亳モ其祖ノ罷武ニ類セズ今將ニ之ヲ鏖ニセントスレバ幕府ノ為ニ之ヲ釋ルシ其俘囚ヲ放チ還ヘレテ其創痍ノモノヲ療シ之ヲ送ラン當ニ來テ之ヲ取ルベシ器械ニ至テハ宜ク兵力ヲ以テ來リ取ルベシト俘コトニ金五兩ヲ與ヘテ放還シ又大竹玖波ノ燒址ニ榜レテ曰獨ニ屢安藝侯ニ託シテ幕府ニ歎訴スレバ曾テ納レラレズ大軍我境ニ臨ムニ及ンデ又我老臣ヲ拘留ス是整々堂々タル罪ヲ

井上聞多
大村益次郎

濱田兵

問フノ師ニアラズ故ニ今我等老臣ヲ奪ヒ關ニ入テ許フル所アラントス路ヲ貴國ニ借ルト雖敢テ貴國ヲ侵掠セズ若シ剽掠セラルモノ或ハ兵燹ニ罹ルモノアラバ即チ之ヲ告ケヨ急ニ其處分ヲナサン此日長將井上聞多大村益次郎等石州口ノ東軍松江濱田ノ兵ガ雲雀當麻ノ兩山ニ陳シ別ニ兵十六百ヲ益田ニ置キ進攻期アラントスルヲ聞キ兵士千二百ヲ率ヒ先ツ濱田ヲ侵セテ山麓ニ屯シ其後ヲ絶ツ松江ノ兵忽チ嶺ニ上リ俯シテ之ニ砲撃雨注ス長兵乃チ更ニ兵ヲ上當麻ニ出ダシ散布シ

益田ノ役

テ以テ濱田ノ營ヲ狙撃ス濱田ノ兵支ル能ハズ營ヲ棄テ、走ル尋テ松江ノ兵モ利アラズ皆退テ濱田城ニ入ル〇十七日長兵暁霧ニ乘シ更ニ益田ヲ襲フ東軍支ヘズ濱田ノ隊將山本半彌之ニ死ス長兵乃チ益田ヲ取リ糧糗ヲ奪ヒ進ンデ周布川ヲ濟リ遂ニ濱田城ニ逼ル此時東軍力ヲ極メテ之ヲ拒グドモ亦敗ラレ監軍三枝刑部之ニ死ス〇十八日城兵復タ支フベカラザルヲ知リ自ラ城ヲ焚テ遁ル藩主松平武聰モ其一族ヲ率ヒ航シテ雲州ニ走ル長軍乃チ濱田ヲ抜キ盡ク城内ノ積聚ヲ散シ上

民ニ分給シ甘言之ヲ撫綏シ急ニ進ンデ大森ニ至リ縣廳ヲ襲ヒ之ニ據ル是ヨ於テ石州盡ク長兵ノ取ル所トナル此時豊前ノ東軍將ニ長州赤馬關ヲ襲ハンイシ軍議未タ決セズ遷延日ヲ送ル長將高杉晉作山縣狂介等乃巨艦三隻ヲ纔ナ直ナニ豊前田ノ浦ニ迫リ石榴彈ヲ連發スレバ小倉ノ隊將鴈村志津馬精兵三百ヲ率ヒテ陸ニアリ之ニ應擊シテ其一艦ヲ沈ム長人屈セズ更ニ走舸ニ乘リ陸ニ上ル志津馬乃チ勇ヲ鼓シテ邀ヘ戰フ辰ヨリ申ニ至ル長軍遂ニ利アラズ田ノ浦ヲ燔キ兵伏ヲ奪フ

石州萬ノ長人ノ所有トナル

田ノ浦ノ役長兵利アラズ

ヲ去リ門司關ニ向ヒ村落ヲ砲擊シ乍ヲ焚ク小倉ノ將澁田見某急ニ馳セ來テ之ヲ卻ク是ヨリ先ニ佛艦横濱ヨリ將ニ長崎ニ赴カント途中赤馬關ニ抵リ長人ヲ劫カシテ曰我國已ニ日本政府ト連和ス故ニ政府ニ敵スルモノハ即我敵ナリ我將ニ政府ヲ助ケ叛者ヲ攻メントス因テ其歸順ヲ勸メ荅期ヲ約シテ去ル長人乃チ相議シテ曰内地ノ事何メ外人ニ關カラン宜ク佛人ノ再ヒ來ラザルニ及ンデ速ニ事ヲ擧クベシト是ニ至テ小倉藩ト兵ヲ交ユ既ニシテ佛人長崎ヨリ還リ長人ノ其言ヲ用

佛人長藩ヲ劫ス

長人佛人ノ言ヲ用ヒズ佛人怒ル

ヒザルヲ責ム長人之ニ答ヲ曰幕府我大島ヲ屠リ我聚落ヲ焚キ多ク無罪ノモノヲ殺ス而シテ小倉藩隣交ニ負キ東軍ヲ助ケ攻撃日ニ急ナレバ我豈ニ手ヲ束テ兵ヲ受ケンヤ佛人怒テ之ヲ爭ハント欲ス適英艦モ亦來リ會スレバ英人問ニ居テ周旋和解シ佛艦乃チ去ル或ハ云フ佛人ノ馬關ニ抵ル幕府ノ密囑ヲ受ルナリ〇十九日長軍兵ヲ二ツニ分ケ一ハ四十八坂ヨリ進ミ一ハ松原ヨリ横撃セント大霧ニ乘シ大野ヲ襲フ東軍三兵隊及ビ紀伊大垣ノ兵力相奮戦遂ニ撃ツテ長兵ヲ走ラス此役長

大野ノ兵モ軍亦利ラズ

長人又大野ヲ侵ス

兵死傷甚タ多ク退テ玖波村ニ陣ス〇二十五日黎明長人四十八坂ヲ踰ヘ又大野ヲ侵ス東軍乃チ大艦ニ駕シ長兵ノ後ヲ砲撃スレバ長兵沮靡進ム能ハズ此時間道ヨリ進ミレ長兵ノ別隊來リ會スレバ則散兵ヲ以テ山上ノ東軍ヲ狙撃シ且發シ且登リ終ニ進ンデ山頂ノ東軍ヲ追ヒ直チニ野戦砲ヲ發シ俯シテ東軍ノ山腹ニ走ルヲ撃ツ是ニ於テ東軍モ亦鋭ヲ盡シテ還リ戦ヒ勝敗未ダ決セザルガ日已ニ午ニ加ワレバ兩軍退ニ兵ヲ引ク是日兩軍ソ次戦スルヤ死傷過當僵屍野ヲ蔽フ枌小笠原壹

岐守ノ小倉ニ赴クヤ老中松平伯耆守之ニ代テ廣
島ニアリ石州盡ク陷リ敵勢日ニ熾ナルニ及ヒ頗
ル計慮スル所アリ乃チ獨裁ヲ以テ完戸備後介等
ノ囚レヲ釋ルシ本國ニ放チ遣ヘス紀伊中納言之
ヲ聞ヒテ大ニ恚リ狀ヲ大坂城ニ報シ且總督ノ任
ヲ解カシト乞フ幕府務テ之ヲ慰諭スレドモ尚聽
カザレバ乃チ伯耆守ヲ大坂ニ召シ之ヲ誚ム伯耆
守對テ曰臣廣嶋ニアリ軍情ノ探索スルニ薩藩已ニ
敵ト好ヲ通シ敵又多ク都府ニ潛匿スレバ所在間
諜シ我情ニ入トシテ知ラザルナシ故ニ我軍ノ屢敗
ヲ取ルモ亦宜ベナリ且頃者英人密ニ兵船硝鉛ヲ
敵ニ賣レバ敵因テ益勢ヲ得ルト聞クリ若シ果シ
テ此ノ如クナレバ又一泰ヲ生スルナリ臣恐クハ
戰定期ナカラン乎ヲ故ニ鄙心自ラ斷シ旨ヲ備後
介ニ授ク之ヲ放ツ庶幾クハ少ク敵銳ヲ折クニ足
ラン乎ヲ因テ上書シ罪ヲ乞フ幕府乃チ伯耆守ノ
職ヲ奪ヒ大坂城代牧野越中守ニ屬シ之ヲ幽ス伯
耆守ノ備後介ヲ還スヤ自ラ罪ヲ獲ルヲ知リ始ヨ
リ之ヲ壹岐守等ニ謀ラズ專斷事ヲ處ス蓋シ其連
累ヲ絕タントト欲スルナリ〇七月長人薩藩ニ托シ

松平伯耆守專斷備援介ヲ放還ス

伯耆守ノ明辯

長人薩人ニ托スル書

伯耆守幽セラル

テ書ヲ總督府ニ致レテ曰問罪ノ師四面環攻スレバ幣邑已ムヲ得ズ兵ヲ出ダレテ之ニ應ジ遂ニ進ンテ地ヲ鄰境ニ借ル頃者松平伯耆守我情ヲ察シ宍戸備後ヲ放テバ爾来幣邑日ニ企望ス寛典ノアラレ1ヲ然カモ道路ハ言ヲ開クニ大師將ニ来リ襲ハントー藩疑惧過慮措カス故ニ貴藩ニ頼テ哀ヲ請ノ薩矣乃チ撤ヲ三十六藩ニ傳ヘテ曰長防ノ士民幣邑ニ頼テ哀ヲ請ノ今日ノ勢之ガ救解ヲナス嫌疑アルモノニ似タリ然レ𪜈武門ノ情急ヲ見テ之ヲ救ハザルヲ得ズ各藩以テ如何トナス是ニ於テ熊本佐賀安濃津久留米米澤柳川忍諸藩之ニ答テ曰幕府勅ヲ奉ジテ罪ヲ問フ救解スベカラズ薩矣乃チ獨リ書ヲ朝廷ニ上リテ外夷航海以來時勢ノ陵遲セシ所以ヲ陳ヘ以テ長防再征ノ擧ニ及ボレ反覆曲折其擧ハ徒ニ皇國ノ騒擾シ万民ヲ倒懸スルモノニテ勤王ノ諸藩ヲシテ餘力ヲ遺サズ以テ聖朝ノ輔佐シ衰運ヲ挽回セシムルモノニアラズトテ務テ征長ノ師ヲ班ヘリント請フ既ニシテ長人再ビ薩人ニ托シ奏シテ曰慶親父子多年力ヲ朝廷ニ致シ一旦譴責ヲ被リ寃枉ヲ雪クヲ得ズ

而レテ大兵再ヒ境ニ臨ム野人其故ヲ知ラズ顧フニ雲霧明ヲ蔽ヒ讒構聰ヲ亂ル必ズ其處旨ニ出ルニアラザルヲ知ルヘシ何トナレバ則癸亥ノ詔ニ曰ヲ刻レテ庚ヲ擾ヲ而レテ幕吏欺罔ノ跡著ハレ遂ニ外庚ノ攝海ニ橫行スルニ至リ正邪混淆レ是非顚倒ス故ニ知ル今日ノ事ハ幕府ノ專決ニ出ルヲ鬼神森列シテ側ニアリ天若レ未ダ二州ノ人ヲ棄ザレバ則再ヒ青天ヲ見ルノ日アラン願クハ垂鑑ヲ賜ヘ薩人之ニ附奏シテ曰壅蔽レテ臣民ノ情ヲ通ゼザルモノハ昭代ノ政ニアラズ傍觀レテ列藩ノ急

ヲ援ケザルモノハ武門ノ習ニアラズ謹テ別疏ヲ取テ以テ聞ス時ニ將軍大坂ノ軍中ニアリ疾ニ罹ル天使中納言飛鳥井雅典就テ之ヲ慰問ス○二十八日東軍大野ニ集リ海陸大擧シテ攻入ノ策ヲ議ス此時長兵已ニ豊前ノ大里田ノ浦ヲ拔キ寨堡ヲ築キ見兵三百ヲ以テ之ニ據リ屢小倉ノ兵ヲ冐カス小倉ノ兵常ニ振ハズ是ヨリ先ニ小笠原壹岐守小倉ニアリ豊前ノ兵ヲ指麾セルガ是ニ至テ急ニ軍艦ニ乘リ長崎ニ脫走スレバ一軍悶然肥後柳川ノ諸隊モ皆兵ヲ引テ藝州ニ還ル長兵乃チ勢ニ乘

小倉藩大ニ窘困ス

玖波村ノ役東軍大敗ル

ジテ益薄マレバ小倉孤立ス○八月朔日小倉藩終ニ火ヲ城中ニ縱ッテ香春ニ走ル初東軍ノ大島ヲ屠ルヤ小倉藩隣交ニ負キ之ヲ助クレバトテ長人常ニ小倉藩ヲ恨ム故ヲ以テ是ニ至リ窮追置カザレバ小倉藩大ニ窘困シ後哀ヲ薩摩肥後両藩ニ乞フ両藩因テ使者ヲ長州ニ遣リ為ニ之ヲ解ケバ長藩乃小倉藩主ノ誓書ヲ取リ事始テ平ル○二日大野ノ東軍海陸并ヒ進ミ玖波小方村ノ長軍ヲ侵ス長軍立トコロニ隊ヲ整ヘテ之ヲ邀ヘ戰フ砲聲天ニ徹シ山壑為ニ顫ル時ニ大雨連朝泥深キ丁三尺

長兵戰ヘズレヲ大野ノ扱ク

両軍頗ル進退ニ苦ム斯クテ已ヨリ西ニ至ル東軍ノ左隊先ヅ敗ル長人乃チ全軍ヲ敲シテ之ニ乘ズレバ東軍大ニ潰ニ大ヲ玖波ニ縱ツテ去ル而シテ此時東軍紀伊彦根高田ノ兵モ亦長人ト松原宮内ニ戰ヘルガ亦敗ヲ取レバ皆退テ大野ニ入ル○八日長人兵ヲ三隊ニ分チ風雨ニ乘シテ大野ヲ襲フ東軍前日ノ大敗ヲ怖レ士氣殊ニ沮喪シ遂ニ戰ハズシテ廣島ニ入レバ長兵直チニ大野ヲ抜キ尚進ンデ廣島ニ逼ラントス此役東軍或ハ甲冑戰袍ヲ着シ刀槍ヲ用ユ而シテ長兵ハ短袴輕衣ニシテ刀

東軍ノ長兵ニ敵スヘカラサル原由

將軍大坂ノ軍中ニ薨ス

一橋中納言西征ヲ辞ス

ヲ脱シ專ヲ銃隊ヲ以テ之ニ當ル蓋シ癸丑ノ戦ヨリ說明スル所アリ以テ兵制ヲ一變スレハ進退操縱意ノ如クナラザルナシ故ニ東軍之ニ匹敵スル能ハズシテ一歩モ其境内ニ入ルヿヲ得ズ○十一日從一位右大臣征夷大將軍徳川家茂大坂ノ行營ニ薨ス時ニ年二十老中稻葉美濃守樞ヲ護シテ江戸ニ歸葬ス詔シテ誄ヲ賜ヒ昭徳院ト曰フ明年七月正一位太政大臣ヲ贈ラル初將軍ノ疾ニ罹ルヤ自ラ起タザルヲ知リ上表シテ一橋慶喜ヲ以テ嗣トナシ代ツテ西師ヲ總馭セシメンヿヲ請ヒケルガ朝議

名望アル諸侯ノ京師ニ召ス

之ヲ允ルシ乃チ慶喜將ニ藝州ニ臨マシムルヿヲ敗聞連リニ至リ諸藩往々兵ヲ引ケバ朝野色ヲ失ヒ為ス所ヲ知ラズ將軍モ亦深ク之ヲ憂慽シ病彌篤ク是ニ至テ遂ニ鬼録ニ上レバ慶喜輒チ西征ノ朝旨ヲ奉スルヲ悔ヒ自ラ事ヲ誤ルヲ咎メ辭シテ復タ西セズ上書シテ諸侯ノ名望アルモノヲ召シ事ヲ議セントヿヲ請フ朝議亦之ヲ許セバ慶喜乃チ手書シテ特ニ尾張大納言松平下野守鍋島閑叟山内容堂伊達遠江守島津大隅守長岡良之助等ヲ京師ニ召ス時ニ諸藩多ク病ト謝シテ即チ至ラズ○

二十五日朝廷家茂ノ薨スルヲ以テ征長ノ兵ヲ弭メント令ヲ諸藩ニ布ク○九月朝廷一橋中納言ニ命シテ入テ宗家ヲ嗣カシム此時長兵已ニ藝州廣島ニ來リ陣スレバ是ニ於テ幕府復タ勝安房守ノ天下ニ名望アルヲ以テ之ヲ起シ藝州ニ遣レテ長藩ヲ喻シ兵ヲ解カシム安房守乃西行シテ長將廣澤兵介井上聞多ニ面晤シ具サニ朝旨幕命ヲ陳ヘ兵ヲ戢メ命ヲ待タシム兵士悉ク令ヲ奉セズ両將朝旨ヲ重ンジ且使者ノ禮アルヲ以テ懇々衆ニ慰諭シ命ニ從ハシムレバ衆乃チ五日ヲ間テ、兵

一勝安房守面下廣澤井上二氏ニ接シ兵ヲ解カシム

一橋中納言宗家ヲ嗣ク

西征ヲ報ズルトノ令

ヲ收メ本國ニ還ル是ニ於テ西事稍平ク初西師ノ起リシヨリ以來幕府財ヲ費スコト鉅万帑藏空竭國用殆ド支ヘズシテ長州ノ事遂ニ一捷ヲ奏スルコト能ハザレバ是ヨリ大藩ハ復タ幕府ノ節度ヲ受ケズ幕府ノ權竟モ地ニ墜ツト云○是秋幕府使ヲ魯國ニ遣ハシ樺太島ノ境界ヲ議ス初文久壬戌ノ秋竹内下野松平石見等魯國ニ至リ北地ノ境界ヲ議センガ為乃チ北緯五十度ヲ以テ両國ノ界ヲ定ントス其地ニ遣リ以テ土民ヲ治メ且地圖ヲ作リ紅青二色ニテ境ヲ分チ五十度ヲ以テ之ヲ線ス魯人

幕府ノ權地ニ墜ツ

使ヲ魯國ニ遣ヲ樺太ノ境界ヲ論ス

肯ゼズシテ曰貴國何ソ徒ラニ五十度ヲ以テ之ヲ
分タンヤ夫レ此地素ヨリ境界ノ定ムベキモノニ
シ然ルニ今强テ之ヲ定メント欲スレバ則両國ノ
間紛擾ヲ生ゼン1必然タリ故ニ嘗テ我公使貴國
ノ下田ニ於テ定ムル如ク聲ク両國ノ人民ヲ雜居
セシメ他日互ニ實地ヲ目擊シテ事ヲ謀ラン然リ
ト雖今貴國强テ之ヲ分タント欲セバ「アニア」港ヨ
リ以北ヲ以テ我領トナセヨ此時竹内等審ニ地理
ヲ知ラザレバ之ヲ論駁スル能ハズ他日ノ再會ヲ
約シ互ニ書ヲ取リ歸朝シテ具サニ彼ガ全島ヲ掠

魯國使節小出大和守石川河内守

奪セント欲スル意ヲ陳ヘテ速ニ地理熟知ノモノ
ヲ遣リ事ヲ決セント請フ後幕府更ニ使節ヲ遣ラ
ントシテ邦内多事ナレバ遷延茲ニ至リ已ニ五年
ノ歲月ヲ歷タリ而シテ尚使者ヲ遣ラザレバ魯人
遂ニ「サカーレン」島ノ開拓ヲナス是ニ於テ幕府大
ニ愕キ小出大和守石川河内守等ヲ彼地ニ遣リ舊
年竹内等ガ約スル所ノ證書ヲ出ダシ經界ヲ定メ
シム魯人嘗テ竹内等ト約セザルモノヽ如クニシ
テ「サカーレン」島ノ代リニ千島ヲ貴國ニ與ヘント
云フ小出等敢テ之ヲ聽カズシテ曰曩ニ約スルハ

境界ノ事ニアラズ唯両國ノ人民ヲ雜居セシムルノミ然ルニ今千島ヲ以テ貴國所有ノ地トナシ之ヲ我ニ與ヘントス欲スル願ル言ヲ食ムニ似タリト議論紛々事次セザルガ魯人之ヲ斷シテ曰事素ヨリ口舌ヲ以テ爭フ何ノ益カ之アラン故ニ両國カヲ協セテ之ヲ開墾シ各其開墾セシ所ニ居ル亦可ナラズヤ是ニ於テ小出等相議シテ曰我輩ノ至ル既ニ遅ケレバ今殊ニ之ヲ辨論スルトモ彼ガ地ナ拓ク已ニ五十度以南ニ及ヘバ妄ニ彼言ヲ諾スル大ニ利アラザルニ似タリト終ニ又彼我人民ノ雜

一橋慶喜征夷大將軍トナル

帝崩ス諡シテ孝明天皇ト曰フ

二條関白

居ヲ約シ明年ノ春歸朝シテ命ヲ復ト云〇十二月詔シテ源慶喜ヲ以テ征夷大將軍トナシ正二位ニ叙シ權大納言ニ任シ右大將ヲ兼ネシム天使二條城ニ就テ之ヲ宣ス慶喜辭讓スルコト再三朝廷殊ニ優詔之ヲ許サヾレバ慶喜乃チ命ヲ奉ス〇二十五日帝崩ス諡ヲ奉シテ孝明天皇ト曰フ帝諱ハ統仁在位二十一年壽三十七時ニ皇太子尚幼ナレバ關白二條左大臣齊敬令ヲ奉シテ攝政タリ明年正月太子踐祚シ明治元年八月ニ至テ乃即位ノ禮ヲ行フ是ヲ今上皇帝トス初天皇ノ位ニ在スヤ英明

果斷ニシテ大體ヲ辨ス嘗テ歷聖ノ諡號ヲ改正シ又和氣清麻呂ニ正一位ヲ贈ル後外國ノ事起リシヨリ以來深ク皇基ノ安危ヲ以テ憂トナシ其社稷ノ為ニ規畫スル所至テ深遠ナレバ不幸ニシテ祚ヲ短フス天下之ヲ悼ム此歲ノ春幕府佛人ヲ延キ騎歩砲三兵ノ傳習セシムルニ及シテ是歲米價殊ニ踊貴シ窮迫計ナケレバトテ諸國ノ土寇蜂起シ所在黨ヲ結シテ横行スレバ幕府乃三隊ヲ遣リ之ヲ平ラク〇三年正月十一日孝明天皇ヲ泉涌寺ニ葬ル大將軍慶喜諸侯ヲ率ヒテ之ニ從フ此時朝廷大喪ヲ以テ有栖川宮正親町大納言德大寺權大納言以下諸廷臣ノ幽禁ヲ免ルス皆癸亥甲子ノ兩變ニ因テ勅譴ヲ獲ルモノナリ又三條實美等五人ヲ赦ルレ將ニ京師ニ召レ還サントス尋テ故關白九條尚忠ノ禁錮ヲ釋ルス尚忠ハ戊午ノ外議ヲ以テ罪ヲ獲タルガ是ニ至テ兵庫開港ノ勅許ヲ請フノ議起ルヲ以テ特ニ之ヲ宥ス〇三月將軍上疏シテ兵庫開港ノ勅許ヲ請フト云是春英米佛蘭各國ノ公使兵庫ニ來泊シ大將軍ノ禪代ヲ賀シ因テ面謁ヲ請フ將軍之ヲ大坂城ニ招

見ス公使乃チ兵庫開港ノ期ヲ促カレ迫請已マザレバ是ニ至テ將軍疏ヲ具レ之ヲ奏ス其畧ニ曰昨冬十月先臣家茂臣慶喜等ヲ率ヒ闕ニ伏シテ上疏シ敢テ條約ノ勅許ヲ請フ先帝事情ヲ明察シ勅ヲ降ダシテ之ヲ允ルスル而シテ殊ニ兵庫ノ開市ヲ禁ズ家茂等敢テ聖旨ニ違ハズト雖其開港ノ期既ニ載セテ盟書ニアレバ復タ渝ユベカラズ苟モ之ヲ渝ヘバ則信ヲ萬國ニ失ヒ禍ヲ目前ニ取ルモノニシテ國家安危ノ係ル所ナレバ誠ニ輕決スベカラズ是ヲ以テ已ニ勅ヲ奉ズト雖實ハ未ダ禁令ヲ布カズ姑ク計議ニ托シ其期ヲ遷延スルノミ既ニシテ家茂世ニ即キ其期復タ迫ル臣乃チ千思万慮斷然以為交際ハ信ヲ先ニスルヨリ大ナルハナシ信ヲ失フベカラズ條約ハ中變スベカラズ臣請フ其概ヲ擧ゲン惟ダ陛下少ク諒察セヨ蓋シ宇内萬國各土地風俗ノ殊ナルアリト雖之ヲ要スルニ同ク天地ノ化ヲ被リ以テ其生育ヲ遂クルモノナリ豈ニ復タ彼此ノ別アランヤ既ニ彼此ノ別ナケレバ萬國ノ生民擧ケテ之ヲ同胞ト謂フモ亦可ナリ是ヲ以テ海外各國皆好ヲ通シ交ヲ結ヒ唯恐クバ其或ハ信義ヲ失ハンコヲ是レ蓋シ

交際ハ信ヲ失フベカラズ

天地自然ノ理ナリ臣故ニ曰交際ハ信ヲ失フベカラズ然リト雖其間自ヲ大小強弱ノ異ヲルナキ能ハザレバ兼并凌奪ノ弊モ亦從テ生ズルヿ言フモ更ナリ是ニ於テ西洋各國皆條約ヲ結ベリ夫レ條約ハ交際ノ基本ニレテ永世不易ノ規則ナリ故ニ一タビ條約ヲ結ブ時ハ則大以テ小ヲ兼ヌル能ハズ強以テ弱ヲ凌グヿ能ハズ信ヲ重ンジ義ヲ尚ヒ永ク矢フテ諼レズ苟モ之ヲ諼レバ則國ノ覆亡踵ヲ旋ラサズ臣故ニ曰條約ハ中變ズベカラズ伏レテ惟ミレバ皇國方ニ海外ニ通ジ長ヲ取リ短ヲ

條約ハ中變ス可カラズ

補ヒ大ニ富強ノ術ヲ究ム況シテ夙ニ三港ヲ開キ既ニ條約ヲ結ビレニ獨兵庫ノ一埠ニ於テ忽チ信ヲ各國ニ失ヒ禍ヲ無窮ニ貽コセバ進ンデハ以テ威ヲ示スニ足ラズ退テハ以テ自ラ守ルヿ能ハザルヲヤ臣窃カニ聖朝ノ為ニ之ヲ愧ヅ仰キ望ラクバ陛下古今ノ變ヲ明鑒レ海宇ノ勢ヲ洞察レ信ヲ尚ヒ義ヲ重ンジ既ニ許スノ條約ニ從ヒ新タニ兵庫ノ乞ヲ允レ以テ夫ノ三港ト埠ヒ開キ益富強ノ基ヲ立テンヿヲ其レ然ル後河海ノ量覆載ノ德以テ宇内ヲ鎮服スルニ足レリ臣昧死謹テ奏ス此疏

ノ入ルヤ朝議其先朝禁ブル所タルヲ以テ敢テ輕決セズ乃チ令ヲ天下ニ下ダレ衆議ヲ諮詢ス是ニ於テ列藩各上疏レ之ニ對フ松平安藝守松前備前守松平因幡守等願ル異議ヲ立ツ而レテ自餘ノ諸侯ハ多クハ之ヲ可トスレバ廷議乃チ衆ニ從ヒ將ニ其請ヲ允サントス是ヨリ先ニ長人ノ兵ヲ收ノ國ニ歸ルヤ事未ダ知ルベカラザルヲ以テ肯テ嚴ヲ解カズ猶戍兵若干ヲ石豊二州ニ置キ以テ恩裁ヲ待チ又屢薩藝兩藩ニ因テ國情ヲ申疏スレバ將軍將ニ其處分ヲナサントセルガ適外人兵庫ノ期ソ

逼ル是ニ於テ朝幕日ニ二事ヲ弁セ議ス而レテ將軍先ツ兵庫ノ事ヲ決シ然ル後防長ノ處分ニ及バントス欲ス時ニ衆議頗ル紛然タリ○四月伊達伊豫守島津大隅守松平春岳山内容堂四侯相踵テ京師ニ入ル四侯以為宜ク防長ヲ先ニシテ兵庫ヲ後ニスベシ否ザレバ則緩急ノ序ヲ失ハント因テ幕府ニ上書レ之ヲ論ズ○五月二十三日將軍老中所司代等ヲ率ヒテ入朝ス松平春岳伊達伊豫守モ亦參朝シ廷議日ヲ踰ユ時ニ島津大隅守疾ト稱レテ朝セズ屢召スモ亦起タズ其藩臣小松帶刀等ヲレ

テ入テ之ヲ謝セシム○二十五日朝議遂ニ決シ令
ヲ天下ニ布ヒヲ日長防ノ事大樹及列藩ノ奏議ニ
從ヒ將ニ寛典ヲ以テ之ヲ處セントス衆宜ク其意
ヲ体シ處置ノ宜キヲ奏スベシ且兵庫ノ事先朝嘗
テ之ヲ禁ゼルガ近日大樹及列藩更ニ建議スル所
アリ而シテ在京四藩ノ意モ亦同シケレバ情勢切
迫万々已ムヲ得ズ因テ新タニ其開港ヲ允ルス宜
ク嚴ニ紀律ヲ立テ以テ後害ヲ防クベシ是ニ於テ
甲子七月掲クル所ノ長人罪狀ノ榜文ヲ撤シ尋デ
本年十二月ヲ以テ兵庫開市ノ期トナシ後更ニ明

兵庫開港ヲ許スノ朝令

長人罪狀ノ榜文ヲ撤ス

年三月ヲ以テ期トナシ中外ニ布告ス○二十七日
山内容堂京ヲ發シ國ニ赴ク初四矣ノ京師ニ至ル
ヤ容堂即チ疾ヲ謝シテ告暇シケルガ朝廷之ヲ允
セバ是ニ至テ本國ニ歸ル蓋シ邦内ノ紛淪ヲ憂ヒ
將ニ建議スル所アラントスレバナリ是月詔シテ
松平容保ガ守護職ノ勞ヲ賞シ參議ニ陞ス○六月
幕府大坂ノ豪商山中善右衛門等十九人ヲ擢ヒ商
社ヲ結バレシメ之ニ俸餉ヲ給シ帶刀スルヲヲ許
ス蓋シ兵庫港ヲ開ケバ交易ノ流通ヲナサシメン
コヲ欲シテナリ是時ニ當テ幕府帑藏ノ空キヲ憂

山内容堂歸國ニ歸ル

山中善右衛門等幕命ヲ受ケテ商社ヲ結フ

将軍内大臣ニ進ル

土佐老侯ノ上書

ト交鈔ヲ造ルノ議ヲ起ス○八月将軍内大臣ニ進メラレ大将故ノ如ク随身兵仗ヲ賜ヒ牛車宮ニ入ルヲ聴サル○九月山内容堂國ニアリ書ヲ幕府ニ上テ曰中古以還武門政權ヲ握リ洋艦來航セレヨリ東攻西撃内訌戦ラス終ニ外國ノ輕侮ヲ招クモノハ我政令ノ二途ニ出デ、天下人心ノ嚮フ所ヲ一定セザレバナリ當今ノ勢豈ニ復タ舊規ヲ墨守スベケンヤ宜ク政權ヲ王室ニ還ヘシ以テ万國並立ノ基ヲ立ツベシ是レ實ニ當今ノ急務ニシテ容堂ノ至願ナリ請フ少ク之ヲ容レヨ因テ其臣寺村

土藩寺村後藤等遊説ノ數件

左膳後藤象次郎福岡藤治等ヲシテ之ヲ齎ラシ上京シテ已ニ代リ其意ヲ條陳シ將軍ニ政權ヲ朝廷ニ還サンコトヲ勸メシム其大要數條ニ曰天下ノ政權宜ク朝廷ニアルベケレバ朝廷急ニ議政局ヲ設ケ制度法令悉ク其局ヨリ出ツベシ曰政局宜ク分ツテ二局トナシ稱スル上下ヲ以テシ議官ハ須ク貴賤ヲ問ハズ正明純良ノ士ヲ選擧スベシ曰事ヲ議スルモノハ宜ク私曲ヲ絶チ公平ヲ主トシ既往ノ是非ヲ問ハズ特ニ今後ノ得失ヲ考ヘ天下ト更始一新スベシ曰制度典礼自ラ古來ノ律令アリ

藝侯モ歸政ノ勸ム

ト雖時殊ニ勢異ナレ・バ拘泥スベカラズ宜ク宿弊ヲ更革シ舊制ヲ折衷シ以テ時勢切當ノ法ヲ立ツヘシ曰都會ノ地宜ク必ス學校ヲ設ケ羣材ヲ教育シ國家他日ノ用ニ供スベシ曰京攝ノ間ニ於テ一大軍團ヲ結ヒ歸レテ親兵トナシ以テ帝都ヲ守衛スベシ曰外國交際宜ク諸藩ノ公議ヲ採リ新タニ至當ノ規約ヲ修シ信義ヲ以テ之ト通商スベク且事權モ亦悉ク朝廷ヨリ出ツベシ時ニ松平安藝守モ亦將軍ニ建白シ說ク大義ヲ以テシ其政柄ヲ解カンコトヲ勸ムルヲ而シテ將軍モ既ニ深思遠慮スル

大ニ政權奉還ノ事件ヲ議ス

將軍歸政ノ奏表

所アリケレバ是ニ至テ意益定ル○十月十三日將軍大ニ列藩將士ヲ二條城ニ會シ歸政奏案ヲ以テ之ヲ示シ意見ヲ諮詢ス譜第將士等意頗ル狐疑シテ薩藩小松帶刀土藩後藤象二郎備前藩牧野權六郎宇和島藩都筑莊藏等同聲之ヲ慫慂スルヲ而シテ衆既ニ退ク將軍特ニ帶刀等ヲ留メ坐ヲ賜フテ之ヲ縱論セシメ議遂ニ一決スレバ是日將軍終ニ疏ヲ具シテ之ヲ奏ス其畧ニ曰臣慶喜謹ンデ按ズルニ昔王綱紐ヲ解クヤ政權武門ニ移ル而シテ爭亂相仍リ生民塗炭ニ苦ム臣カ祖家康ニ至ルニ及ンデ

284664

纔ニ靖ノ禍難ヲ戡定レ以テ勤王ノ誠ヲ致スヲ得ル皇家其微勞ヲ思ヒ猶寄スルニ閫外ノ任ヲ以テレ子孫相承キ奕葉職ヲ奉ズ益レ世ヲ繼ク十有五年ヲ歷ルニ二百餘惟タ海岳ノ天寵ヲ蒙リ未ダ消埃ノ私報ヲ效サーズ傳ヘテ臣ニ至ル國家多難政刑當ヲ失ヒ終ニ今日ノ危急ニ至ル是皆臣カ薄德ノ致ス所ニレテ其罪至テ深レ而レテ方今外舶輻湊レ時勢大ニ變ズレバ軍國ノ務内外蝟集レ復タ區々舊制ノ得テ濟フ所ニアラズ臣然レテ後益知ル政令一途ニ出デザルベカラズ朝權上古ニ復セザルベカラズ

朝廷將軍ノ辭職ヲ聽ルシ大ニ列藩ヲ召レ新政ヲ議ス

近世叢語三編　卷之五　三十九

ルベカラズ臣故ニ願クハ柱石ノ任ヲ辭レ兵食ノ柄ヲ解キ謹ンデ之ヲ聖朝ニ奉歸レ天下ノ事一ニ震斷ヲ仰キ以テ列藩ト同心戮力皇國ヲ無窮ニ保護レ天威ヲ海外ニ照耀センコトヲ是レ乃臣慶喜ノ以テ尺寸ノ報ヲ圖ル所以ナリ謹ンデ奏ス〇十五日將軍入朝ス公卿以下諸有司モ亦皆會スレバ大ニ將軍ノ奏事ヲ廷議ス小松帶刀等モ亦其議ニ與カル此日朝廷遂ニ將軍ノ辭職ヲ聽ルシ優詔之ニ報ス因テ命レテ列藩ヲ召レ新政ヲ會議ス召ヲ蒙ルモノ凡五十餘藩尾張大納言越前宰相島津修理

大夫山内容堂伊達伊豫守等相踵テ京師ニ入リ自
餘疾ト稱シテ至ラザルモノモ亦重臣ヲシテ代リ
來ラシム而シテ德川内府仍駐テ二條城ニアリ屢
庶政ヲ條奏シ朝廷ノ新裁ヲ仰ク○二十日廷議諸
藩士ヲ召シ七卿ノ處分及ヒ外國事宜ヲ咨問ス○二
十一日諸藩士各上書シテ奏對ス其議大抵以為宜
ク姑ク内府ニ委任シ諸侯ノ會議ヲ待テ之ヲ決ス
ベシ○二十九日宣命使權大納言日野資宗ヲ泉山
陵ニ奉シ朝政復古ヲ告ク是ヨリ先ニ德川内府
ノ罪ヲ引キ職ヲ辭スルヤ尾張大納言身三家ノ列

諸藩士ノ奏議

尾張矣官辭ヲ辭ス聽サ

レズ

ニアツテ扶翼無狀ナレバトテ自ラ劾奏シテ官爵
ヲ辭ス廷議其積勞ヲ稱シ優獎聽ルサズ○十一月
朝廷更ニ尾張大納言及ヒ越前宰相ニ勅シテ時務
ヲ建白セシム是ニ於テ兩侯ガ勤王ノ志益固シ○
十二月八日中山大納言正親町中將三條大納言
德大寺中納言岩倉右兵衛督等德川慶勝松平慶永
島津茂久山内容堂及尾張藩成瀬隼人正肥田如雲
越前藩中根雪江酒井十之丞薩州藩西郷隆盛大久
保一藏岩下佐次右衛門土州藩後藤象次郎福岡藤
次等ト小御所ニ會議ス茂久曰朝廷已ニ政權ヲ収

尾越兩侯勤王ノ志益固シ

紛議大ニ起ル

ムレ尺土地人民ヲ有セザレバ名アリテ實ナレ宜
ク徳川氏ニ課シテ其八百万石ヲ割キ以テ經費ニ
充ツベシ時ニ岩倉具視之ヲ賛成シ書ヲ袖中ヨリ
出ダス即チ變革ノ事件ヲ畫策シ内外ヲ處分スル
モノナリ容堂曰幕府固ヨリ其職ニ任セザル然ル事
今日ニ至ル尾越薩土ト雖亦慾ナナキニアラズ而
シテ今獨リ徳川ノ有ヲ収ム恐クハ公明正大ノモ
ノニアラズ諸侯モ亦宜ク國ノ大小ニ從フテ其幾
分ノ一ヲ割テ以テ土地人民ヲ貢スベシ且會津ノ
如キモノハ事ヲ處スル過アリト雖惡意アルニア

二條家以下官爵ヲ復セラル

政權歸一ノ朝令

攝政幕府等ヲ廢シ樞機ニ三職ヲ置ク

ラザレバ宜ク之ヲシテ國ニ就カシムベシト紛議
大ニ起リ暁ニ徹シテ乃チ退ク此日朝廷三條實
美等五卿及ヒ故ノ錦小路頼徳ノ官爵ヲ復ス獨澤
宣嘉其所在ヲ審ニセザルヲ以テ與カラズ天下ニ
命シテ之ヲ物色セシム○九日朝廷天下ニ令シテ
曰今ヨリ以往大小ノ政令皆朝廷ヨリ出ヅ四方
其レ之ヲ体セヨ此日遂ニ詔シテ會桑ノ九門宿衛
ヲ罷メ薩土藝諸藩ヲ以テ之ニ代ヘ二條家ノ攝政
ヲ罷メ彈正尹尊融ヲ職ヲ攝關幕府及ヒ議奏官傳
奏司守護職所司代ヲ廢シ權リニ總裁議定參與ノ

毛利家宮醉ヲ復セラル

三職ヲ置キ有栖川宮熾仁ヲ以テ總裁トナシ三條實美岩倉具視中山忠愛正親町實愛等ヲ議定トナシ小松帶刀後藤象次郎木戸準一郎等ヲ參與トナシ以テ政治ヲ總括セシム○十一日長藩毛利工匠等遂ニ京師ニ入ル即日朝廷ニ詔シテ毛利家一族ノ宮爵ヲ復ス爰テ五卿モ亦歸京ス初工匠兵八百ヲ率ヒテ武庫ニ至ル幕府之ヲ大坂ニ置ント欲ス長將山田市之丞參謀交野十郎等聽カズ居ル幾クモナク政權朝廷ヨリ出ヅレバ是ニ至テ入京ス而シテ是ヨリ先ニ德川毛利家ノ間事已ニ平ク

德川内府意變レ後ク政權ヲ執ラント請フ

ト雖兵ヲ構フノ餘ナレバ尚互ニ相忌ムノ形アリテ會桑両藩等殊ニ之ト並ビ立ツヲ欲セザルガ一昨朝令ノ出ヅルヤ德川内府モ亦自ラ其議ニ與カラザルヲ怨ミ意變ヲ謂フヲ是レ衆議輿論ヲ以テ事ヲ決スルニ托シ諸藩士ノ朝命ヲ擅ニスルナラント遂ニ會桑以下數侯ヲ二條城ニ會シ相議レテ曰ク近日ノ朝議何ゾ前日ト相反スル此ノ如キニ至ルヤ是レ必ズ幼帝ヲ騙カシ私ヲ謀ルモノアラント乃チ朝廷ニ上書シテ曰ク臣ニ詔レ諸藩ノ入覲ヲ待テ事ヲ議セシム而シテ臣等九日ノ大

議ニ與カルヲ得ザルモノハ何ゾヤ因テ舊ニ依リ
尚事ヲ執ラント請フヘハ是ニ至テ天下大ニ内府
ヲ疑フ蓋シ内府既ニ政權ヲ朝廷ニ歸ヘシ又此表
ヲ上レバナリ此時薩長土藝諸藩宮闕ヲ守護シ德
川ノ將士二條城ニ據リ、屹然トシテ相對シ互ニ其
隙ヲ窺フテ事ヲ起サントスルモノノ如クニ似タレバ朝
野驚惨措カズ人情洶々口耳相屬ス德川ノ將士等
或ハ内府ニ勸メテ曰事已ニ此ニ至ル何ゾ坐シテ
彼ノ箝制ヲ受ケンヤ今ニ及ンデ大坂城ニ據リ以
テ咽喉ヲ扼シ之ヲ制スルニ若カズ内府之ヲ然リ

関下瞥然

内府大坂城ニ入ル

伊地知山田氏等ノ筆蹟遺漏ナシ

トス○十二日夜内府臣下ノ暴動ヲ鎮定セント唱
ヘ書ヲ朝廷ニ留メ會桑及ヒ板倉侍從等ヲ率ヒ大
坂ニ下ル是ニ於テ關下悄然公卿有司頓ニ安堵
ヲ覺ヘ互ニ無事ナルヲ賀ス然レトモ隊將伊地知正
治山田市之丞衆謀交野十郎等大ニ之ヲ憂ヒ相議
レテ曰古ヨリ兵ヲ此地ニ受ケ勝ヲ保ツモノ寡シ
今東軍ノ退ク其志測ルベカラズ彼若シ大坂城ニ
據リ海軍ヲ以テ兵庫ヲ扼シ我糧道ヲ絶テ且關東
ノ兵ヲシテ益海道ヨリ進擊セシメバ我軍殆ド籠
禽ノ如クニシテ計ノ出ズベキナシ故ニ豫メ但馬

會桑兩藩入京ヲ禁セラル

薩州邸浪士ノ擾乱

丹波丹後ニ兵ヲ置キ其地方ヲ従服セシメ一朝事アル即チ之ニ援リ以テ後圖ヲナサント議輒チ決シ東軍ノ擧止ヲ窺フ○十四日朝廷徳川家將士ノ擧止異ナルヲ察シ會桑兩藩ノ入京スルヲ禁ズ是ヨリ先ニ内府南下ノ報江戸ニ至ルヤ府吏大ニ驚キ兵ヲ遣ハシテ西上セシメ又庄内藩ニ命シ府下ヲ巡警セシム時ニ浪士數百人芝薩邸ニ潜匿シ隊ヲ結ビ夜ニ乘シテ富商ヲ掠奪シ或ハ庄内ノ屯營ヲ砲撃ス府下之ガ為ニ白日戸ヲ閉ヂ寂然タル僻境ノ如ナルニ至ル庄内藩大ニ其無狀ヲ怒リ

徳川島津相敵視ス

薩邸ヲ襲ハント請フ事大坂ニ報ス内府乃チ曰朝ニ朝議ノ變スル薩藩ノ主トシテ事ヲ謀ルナレバ浪士ノ關東ヲ擾乱スルモ亦必ス薩人ノ之ヲ嗾使スルナラント遂ニ逋捕ノ命ヲ江戸ニ下ス是ニ於テ徳川家ノ僚属大ニ兵ヲ以テ薩邸ヲ圍ムヿ三面大ヲ縱ツチ之ヲ燔キ盡ク其徒ヲ捕フ是ヨリ徳川島津ノ間相敵視ス後内府薩人暴動ノ狀ヲ奏シ其藩士ノ朝政ニ參スルモノヲ黜ケント請フ朝廷之ヲ卻ケテ省セズ此時議定參與等相議シテ曰王室新タニ政ヲ釐レドモ以テ經費ニ充ルナケレバ斷然

朝議内府ヲ議定職ニ列セシメントス

尾越両脊府ヲ説ク

之ヲ徳川諸藩ニ課シ土地ヲ貢献セシムベシト乃チ廷議一決シ尾張大納言越前宰相ヲシテヲ大坂ニ下リ内府ヲ諭シテヲ議定職ニ列セシメントス尾藩成瀬隼人正田中不二麿鷲津毅堂毛受洪等之ニ従フ而シテ両侯ノ大坂ニ至ルヤ具サニ朝旨ヲ宣ヘ其地ヲ貢シ速ニ入朝スルヿヲ勧メ且曰此際ニ当リ心ヲ挟ム所ナク宜ク小隊軽装以テ京ニ入ルベシ宗家若シ戒心アラバ尾越兵ヲ出ダシテ之ヲ護ランヿヲ以テ念トナス勿レ内府陽ニ之ヲ領スレドモ心ニ之ヲ危ブム翼ニ内府ノ大坂ニ下ル新撰圖ノ長近藤

田中不二麿鷲津毅堂

伏水ノ兵ヲ撤セシム

内府兵ヲ率ヒ京師ヲ要セントス

明治元年

勇土方歲三等ヲ伏水ニ留メケルガ是時ニ當リ其兵屯集スル數千ニ至ルバ田中鷲津等乃チ徳川ノ將吏永井尚志塚原但馬等ニ説テ曰内府將ニ入朝セントス宜ク先ツ伏水ノ兵ヲ徹スベシト因テ順逆ヲ陳ス尚志等之ヲ然リトスレドモ行フ能ハズ○明治元年正月朔日尾張大納言越前宰相等京師ニ歸リ徳川内府ノ朝旨ヲ奉スル旨ヲ反命ス蓋シ内府ノ意ヲ知ラザレバナリ此夜會桑両藩主及ヒ諸將等大坂城ニ集リ内府ニ説ク曰尾越両公ノ言容易ニ信ズベカラズ故ニ主公入朝セント欲スル臣

等敢死之ニ從ヒ君側ノ姦ヲ除キ天下ノ事ヲ一決セン是ニ於テ内府意決シ遂ニ會桑ノ兵ヲ先驅トナシ天ノ明ルヲ俟テ京ニ入ントス事京師ニ聞ユレハ衆情洶々タリ〇二日朝廷薩長両藩ノ兵ヲレテ伏見鳥羽両道ノ關ヲ塞キ以テ東軍ヲ壅セシム

伊地知氏等專決ノ權ヲ請フ

隊將伊地知正治山田市之丞等發スルニ臨ミ請フヲ曰臣等大坂ヲ謀スルニ動止常ナラズ大軍必ズ關ヲ排シテ過キン願クハ機ニ臨ンデ事ヲ專決スル威權ヲ賜ヘヨ朝廷乃チ令シテ德川慶喜大兵ヲ帥テ入朝スルヲ許サズ會桑ノ如キハ固ヨリ其京

伏見鳥羽ノ役

是ヨリ東軍賊名ヲ得ル

ニ入ルヲ禁ズ如レ命ヲ用ヒザレバ便宜事ニ從ヘ正治等即兵ヲ率ヒ出デ、両道ノ關ヲ守ル時ニ官軍凡六千五百人東軍號シテ、三万ト稱ス既ニシテ東兵佐久間近江久保田備前等三兵隊ヲ率ヒ高松濱田等ノ兵ヲ應援トシ會桑両藩ヲ先鋒トシ將ニ伏見鳥羽両道ヨリ進ントス〇三日東軍ノ使者瀧川某來テ二關ヲ過ンコト請フ官軍敢テ許サズ某曰寡君朝命ヲ蒙リ入朝セントス而レヲ公等之ヲ拒マバ則兵力ヲ以テ之ヲ過ントス禮セメレヲ去ル既ニシテ賊軍大ニ至ル官軍事ノ急ナルヲ見テ大煩

鳥羽ノ役官軍大捷報ル

ヲ發レ之ヲ拒ク賊軍モ亦應撃レ彈丸交注ク而シテ官軍遂ニ賊軍ヲ走ラス時ニ伏見火起ル賊軍又二道ヨリ來テ官軍ヲ侵ス官軍防戦迭ニ死傷アリ西牌両軍兵ヲ引ク此夜三數諜者官軍ニ報ジテ曰賊軍今正ニ於テ夕餐ヲ傳フ官軍即チ急ニ之ヲ襲フ賊軍大ニ狼狽兵器ヲ棄テ、走ル通其遊軍馳セ至リ之ヲ援ヘバ賊軍即チ反戦レ官軍ヲ衝突ス官軍大ニ亂レ殆ド支ヘザラントス隊將市木某大山某後藤某等乃チ衆ヲ勵マシ其左翼ヲ撃ツ是ニ於テ賊軍稍辟易ス官軍之ニ乘シ遂ニ大ニ賊軍ヲ破ル而シテ市木等三將之ニ死ス此時ニ當リ朝廷急ニ西園寺中納言ヲ將トレ精兵三百ヲ率ヒテ三但州ノ地方ニ遣リ佗日ノ討ヲナサレム蓋シ伊地知氏等ノ謀畧ヲ用ニレバナリ○四日賊軍大擧シテ両道ニ逼ル隊將山田孫一郎伊集院金次郎等衆ヲ督シテ伏見ノ賊軍ニ當リ奮闘之ヲ走ラス而シテ鳥羽道ノ賊軍銃ヲ叢メテ亂射ス其鋒甚ダ鋭ク當ルベカラズ然カモ官軍豫メ散兵ヲ道傍ノ窪窒中ニ伏シレケレバ賊ニシテ伏起リ彈丸賊軍ノ中堅ニ注ク是ヲ以テ賊兵殪ル、モノ無數伏屍

総督仁和寺宮

伊地知氏等ノ述誅滅處

道ヲ敵ノ佐久間久保田等モ之ニ死ス此時仁和寺宮純仁總督トレヽヲ金甲馬ニ騎リ前驅ニ錦旗ヲ翻ヘレテ進メバ官軍大ニ振ヒ勢ニ乘レヲ賊軍ノ先鋒ヲ禦ク先鋒大ニ潰エ屍ヲ踰テ走ル既ニレヲ兩鳥羽火起レバ賊軍退ヲ淀ニ入ル時ニ紀藩三千餘大坂ノ天王寺ニ屯集セルガ蚤使ヲ官軍ニ遣リ命ヲ請フ伊地知交野氏等相議レヲ曰紀藩今順逆ヲ辨ズト雖畢竟賊ノ親族ナレバ其意ノ遽ニ變ベル1隊ノ圖ルベカラズ故ニ天王寺ノ兵ヲシテ本國ニ退カレシムルハ方今寧一ノ上策ナリト遂ニ命ジテ兵ヲ藩地ニ還サレシム○五日黎明官軍大ニ淀城ヲ攻ム賊軍淀橋ヲ隔テヽ陣スレバ官軍河岸ニアリ砲撃レヲ進マズ此時賊軍搶隊百人ヲ蓋葦中ニ伏レ更ニ銃手ヲ出ダレ官軍ヲ挑ム官軍其伏アルヲ知リ敢テ進マズ隊將石川厚狹介奮然トレヲ曰危キヲ視テ苟モ避ケ人ノ突ヲ如何セント乃チ銃手數人ヲ率ヒ挺前レヲ之ニ當ル衆乃チ奮フヲ曰我良將ヲ敵ニ餌スル勿レト先ヲ爭フヲ之ニ繼ク伏兵忽チ左右ニ起リ銃手モ亦麕至スレバ先鋒石川伊東中島等之ニ死ス伊集院柳田藤村三浦等之

石川厚狹介ノ勇武

官軍淀城ヲ攻ク

津藩又正ス

橋本ノ役賊軍大敗大坂ニ走ル

ヲ見テ大ニ憤激シ咄嗟衆ヲ動マレテ進メバ賊軍氣稍沮ミ隊伍少シク亂ル衆乃チ吶喊遂ニ之ヲ破ル時巳ニ正午官軍淀城ヲ抜ク

テ橋本ニ陣ス初藤堂ノ兵賊軍ノ為ニ山崎ノ關ヲ守ル官軍天使ヲ之ニ下ダシ反覆順逆ヲ陳フ藤堂ノ兵乃チ命ヲ奉ジ官軍ヲ納ル而シテ賊軍未ダ之ヲ知ラザルナリ

ス時ニ賊軍復タ淀城ニ據リ之ヲ避ケント欲ス淀藩峻拒納レザレバ賊軍巳ムヲ得ス城外一次ス而シテ官軍淀城ニ至ルニ及ヒ頗ル淀藩ヲ疑ヒ之ヲ

賊敗東ニ走ル

貴ム淀藩具サニ賊ヲ郤クルノ狀ヲ陳ヘ以テ歸順ヲ請フ是ニ至リ官軍乃チ淀藩ヲ以テ先鋒トナシ橋本ニ逼ル戰正ニ酣ナルヤ藤堂ノ兵山崎ヨリ横ニ榴彈ヲ橋本ノ牙營ニ注ク是ニ於テ賊軍大ニ望ヲ失ヒ一軍潰亂死傷無算官軍乃チ破竹ノ勢ニ乘シ鼓課齊ク進ム賊軍遂ニ保ツ能ハズ先ヲ爭フテ大坂ニ走ル是ヨリ先ニ敗聞日ニ太坂ニ至レバ是ニ至テ德川内府及ヒ會桑兩藩主板倉伊賀守小笠原壹岐守等狼狽身ヲ挺シ田陽艦ニ乘リ東ニ走ル是ニ於テ賊衆其首領ヲ失ヘバ一軍沮靡或ハ紀伊

伏見鳥羽ノ亂平ヤ薩長ノ勇武天下ニ顯ル

近畿諸藩ノ勤皆ヲ問フ

戎ハ伊賀ヲ經テ東ニ走ル既ニシテ大坂城災アリ此役薩州ノ將伊集院與市以下死スルモノ百五十人長州ノ將片山金次郎以下死スルモノ百二十人蓋シ寡ヲ以テ衆ニ當レバ死傷頗ル多ケレ𪜈速ニ軍功ヲ奏スレバ是ヨリ薩長兩藩ノ勇武益天下ニ顯ル○九日總督仁和寺宮進ンデ大坂ニ至リ津村坊ニ次ス是ニ於テ官軍勢ニ乘シ近畿ヲ定メント使ヲ發シテ高松濱田等諸藩ノ勤皆ヲ問フ時ニ諸藩士或ハ勤王或ハ佐幕ノ說ヲ以テ大ニ藩内ニ沸騰セルガ後皆圖ヲ改メテ官軍ニ屬スルニ至レリ先ニ帖服シテ王ニ勤ム西州地方ノ諸藩ハ是ヨリ先ニ帖服シテ王ニ勤ム西園寺ノ其地方ニアリ諸藩ヲ諭スレバナリ此役官軍遂ニ大捷ヲ獲テ三但ニ據ルノミナケレ𪜈速ニ其勤皆ヲ定メレメ𪜈日ノ變ニ備フル人其籌畧ノ遺策ナキヲ嘆賞セザルモノナレ○十二日詔シテ慶喜以下ノ官爵ヲ削リ有栖川宮ヲ征東總督トナシ大ニ東征ノ師ヲ起サント錦旗節刀ヲ授ケ諸藩ヲ令シテ曰去年德川慶喜ノ事ニ託シ大坂ニ退クヤ尾越兩主ヲ遣リ慶喜ヲ喻シ京ニ召シ將ニ處スル所アラントシテ慶喜大軍ヲ率ヒ暴ニ入京ヲ禁ス

德川慶喜官爵ヲ削ラル

有栖川宮征東總督ニ命セラル

徵兵ノ令

各國公使局外中立ノ令ヲ布ク

ル會桑兩藩ヲ先鋒トナレ入朝スト宣言シテ以テ朝廷ヲ要セントス故ニ官軍之ヲ郊外ニ防ヶ而シテ慶喜之ニ抗スル〻數日遂ニ支ル能ハズ一敗ノ餘リ東ニ走ル其罪征セザルベカラズ諸藩努力急ニ兵士ヲ麾下ニ上セヨ〇十五日天皇元服ヲ加ヘ天下ニ赦ス是時各國公使ノ兵庫ニアルモノ日本ヲ以テ局外中立ノ國トナレ在留人民ニ布告シテ曰方今日本國内ニ於テ師東西ニ起ラントス然レ𪜈我人民ハ決テ東西ノ師ヲ援クル勿レ又兵器ヲ賣ル勿レ〇二月十五日土州ノ士卒佛人ト六名ヲ

土佛人ヲ殺ス佛人ヲ殺ス由公使悉ク事ヲ政府ニ要ス

界浦ニ銃撃ス佛人或ハ死シ或ハ傷ツク是ヨリ先ニ備前ノ人モ亦神戸ニテ佛人ヲ途ニ要殺スレバ是ニ至テ佛公使大ニ怒リ四條ヲ以テ政府ニ要シテ曰政府ノ貴官宜ク我艦ニ入リテ事ヲ謝セヨ曰貴國人ノ刀ヲ佩ヒ我居留地ニ入ルヲ禁ズ曰償金十五万元ヲ出ダセヨ曰我國人ナ殺害セシ士卒ヲ刑セヨ凡此四事三日ヲ則シテ報ヲ得ン若シ其期ニ爽ハヽ則我將ニ處スル所アラントス時ニ朝廷新タニ政權ヲ執リ銃意治ヲ圖レバ佛人ヲ殺セルヿ曲我ニアルヲ以テ立ロニ四事ヲ決シ尋テ土備

京師ヲ以テ日本政府ト認メラレハル朝令

邦内外国人ヲ悪ムモノ衆シ

ノ人十六名ヲ捕ヘ斬ニ處シ事乃チ平ク初政令ノ京師ヨリ出ル兵庫ニ於テ各國ニ告ケテ曰令ヨリ京師ヲ以テ日本政府ト為セヨ咨國命ヲ奉ズ已ニシテ許テ曰近年我人民ノ貴國人ノ為ニ殺サルモノ數十人其悲慘ヲ極ム今皇帝新タニ政ヲ執ラバ宜ク貴邦内ニ令シ此ノ如キコトアルナカラシメヨ朝廷乃チ之ヲ四方ニ布告ス然レ𪜈邦内尚外國人ヲ悪ムモノ衆シテ土佛ノ士卒等此暴舉ヲ起スト云是ヨリ先ニ東久世少將宇和島少將等大坂ニ詣リ各國公使ニ告ケ曰我政府新タニ外國事務局

外國事務局

各國公使參朝ノ日ヲ通ル

ヲ置キ我等ヲシテ之ヲ掌ラシム請フ今ヨリ我人民ト各國人民トノ交誼益厚クシテ誠實ヲ盡シ互ニ疑團ナキヲ以テ主意トナサン且我皇帝公使ヲ京師ニ見ントス其レ之ヲ領セヨ公使曰征東ノ師起ル近キニアリト聞ク吾曹將ニ横濱ニ至リ以テ在留人民ヲシテ亂ヲ避クシメントス皇帝謁ヲ賜ハバ請フ急ニ日ヲ刻セヨ少將之ヲ諭シテ曰東征ノ師ハ徳川家ノ罪狀ヲ問フノミ何ソ横濱函館ノ外國人ニ關スルコトアランヤ公使曰然レ𪜈日ヲ曠スベカラズト敢テ聽カザレバ是ニ至テ朝廷公使

衆朝ノ事ヲ議ス或ハ曰醜夷ヲ闕ニ召ス物議ヲ如何セン衆謀某突テ啓ヘズ遂ニ其日ヲ則ス〇二十八日帝親ラ在京ノ列藩ニ詔シテ曰朕夙ニ天位ヲ紹キ天下一新ノ運ニ膺リ列聖ノ餘業ヲ纘述シ内ハ列藩万姓ヲ撫綏シ外ハ國威ヲ海外ニ耀サント欲ス然ルニ徳川慶喜不軌ヲ謀リ天下鮮體シ万民塗炭ニ苦ム是ニ於テ朕斷然親征ノ議ヲ決セリ汝等朕ガ不逮ヲ佐ケ同心協力國家ノ為ニ努力セヨ時ニ諸道ノ舊榜ヲ撤シ更ニ新令ヲ掲ク〇晦日英公使入朝ス途ニ浪士アリ之ヲ襲撃セント其衛

親征ヲ列藩ニ告ク

浪士英使ヲ要殺セン

卒ヲ傷ク我有司防撃甚タカメ遂ニ浪士數人ヲ殺ス是ヲ以テ公使儀ヲ畢ヘズ途ヨリ還ル初徳川内府等ノ東走スルヤ將佐臣属其身ヲ挺シテ遁ルヽヲ憚ヒズ紛議大ニ生シ或ハ議シテ曰令ノ計ヲ為スハ外國ノカヲ藉ルニアルカ又輪王寺宮ヲ擁シテ以テ天下ニ令センカ是即チ東照公ノ以テ謀ヲ貽ス所ナレバナリ或ハ曰先ツ函關ヲ扼シ以テ列藩ニ令セン時ニ會人外島河原等相議シテ曰外國ノ力ニ頼リ縱ヒ之ニ勝ツトモ天下後世之ヲ何トカ謂ハン而シテ輪王寺宮ヲ奉スル亦大ニ國體ヲ損

関東紛擾ニ起リ攻守ノ策區々タリ

外島河原等大義ヲ辨ス

トレテ果サズ

ス昔元暦延元既ニ僭亂ヲ啓ク今豈ニ再ヒ之ヲ行フベケンヤ東照公ノ意必ス此ニ出テズ今日不幸朝敵ノ名ヲ負フ忠邪曲直天下自ラ公論アリ此ニ策ハ是自ラ朝敵ノ名ヲ取ルナリ而シテ令親征ノ詔下ルト聞ト何ゾ之ヲ敵視スルヿヲ得ンヤ唯歸順アルノミ既ニシテ容保罪ヲ謝シ國ニ就キ松平定敬板倉伊賀小笠原壹岐等東北ニ潜匿スレバ諧第ノ諸侯等或ハ西上シ或ハ國ニ就キ嚮背一ナラズ〇三月朔英米佛蘭公使入朝シ皇帝ニ拜謁シ我新政ノ盛事ヲ賀シ條約ヲ申ス初京師神戸ノ變ニ

関東瓦解ノ兆ニ顯ル

各国公使始テ入朝ス

有司憂勞シテ謂フ事測ルベカラズト是ニ至テ外事粗定リ近畿事ナケレバ士民扑舞相慶ス時ニ叅與大久保市藏上表シテ曰王師大ニ捷ナ賊魁東ニ走ル而シテ列藩ノ嚮背未ダ定ラズ外國ノ交誼未ダ盡サズ此時ニ當リ宜ク非常ノ斷ヲ以テ非常ノ事ヲ行ハザルベカラズ恭シテ惟フニ中古ヨリ我皇帝簾ヲ垂レ手ヲ拱シテ寸歩地ヲ蹈マズ九重深邃御座ニ近ヅクヲ得ルモノ公卿數人ニ止ル所謂階前千里ナルモノナリ夫レ上ヲ敬スルハ人倫ノ大道ト雖推尊道ヲ失ヘバ則天理ニ乖戻シ上下ヲ

大久保參與ノ建論

此表及ビ薩長土肥四藩版籍奉還ノ上表皆堂々正々タル大文字ニシテ日月ト光ヲ爭フ實ニ中興以還第一ノ表トナス

万機公論ニ決セントノ誓文

隔絶ス是レ古今ノ通弊ナリ請フ俗論ヲ肯破レ遠幅ヲ飾ラズ以テ事ニ簡易軽便ニ從ハン且平安ハ一方ニ僻在ス以テ大ニ聖謨ヲ廓クヱ足ラズ故ニ今日ノ急務ハ行宮ヲ大坂ニ建テ都ヲ遷レ以テ宿弊ヲ一洗スルニアリ伏シテ希フ聖明之ヲ裁セヨ表入ル挙朝為ニ動ク後江戸ニ遷幸アル蓋シ此議ニ本ヅクト云フ是ヨリ先ニ二條城ヲ以テ大政官代トナシ庶政ヲ裁決シ諸侯ヲ會シ盟フテ曰廣ク集議ヲ詢ヒ万機公論ニ決セン再命ニ曰天地ノ公道ニ頼リ智識ヲ宇内ニ求メ以テ皇基ヲ振起セン既ニシテ帝親ラ關東ヲ征セント大坂ニ幸シ海軍ヲ觀ル此時ニ當リ諸道ノ官軍水陸道ヲ分ツテ江戸ヲ攻メント薩州長州紀州肥後備前越前藤堂佐土原亀山水口大村八海道ヨリ進ミ薩長ノ別軍因州土州大垣ハ山道ヨリ進ム警江戸ニ報ス德川ノ將佐及ヒ譜第ノ諸藩士等乃チ相集リ軍事ヲ謀ル初伏見ノ役ニ紀尾両藩各黨ヲ其藩内ニ結ヒ或ハ關東ニ應ゼ以テ宗家ヲ援ケント欲ス尾張大納言之ヲ憂ヒ其臣小瀬新太郎田宮如雲田中不二麿勝津毅堂丹羽淳

大坂ニ臨幸アリ

官軍関東ニ向フ

尾藩大義親ヲ滅スノ令ヲ下ス

太郎等ト謀リ義親ヲ滅スト令ヲ下ダシ首謀渡邊新左衛門榊原勘解由石川内藏允寺尾竹四郎以下十三人ニ死ヲ賜ヒ鈴木丹後成瀬豊前等十七人ノ家祿ヲ奪ヒ或ハ禁錮或ハ退隱セシム是ニ由テ闔藩方向ヲ定メ王ニ勤ムルモノ德川ノ臣属ニ謀ヲ通ス近藤勇等モ亦之ヲ贊成スレバ是ニ至テ衆相謀リ日夜江城ニ蝟集シ或ハ兵ヲ出グシテ函關ヲ拆セント議シ或ハ海軍ヲ以テ大坂ヲ襲ハント攻守ノ策ヲ慶喜ニ勸ム時ニ慶喜恭順非ヲ悔ヒ衆議ヲ弁ソケテ用ヒズ獨

勝安房守大久保一翁等ヲ別室ニ召シ密旨ヲ授ケ手書シテ將佐臣属ヲ戒テ曰謹デ官軍ニ抗スル勿レ若シ之ニ抗セハ猶吾朕ニ剌ムカ如シト遂ニ出デ、上野寛永寺ニ屏居ス將士益憤ヒズ往々籍ヲ脫シ兵ヲ聚メ隊ヲ編ム時ニ彰義誠忠純義會義草風衛鋒開天七聯傳習遊擊進擊隊等ノ名アリ而シテ三兵隊モ多クハ之ニ黨シ或ハ常野ニ走リ或ハ甲府ニ走ル○六日山道ノ官軍因土ノ兵信濃ヨリ進シテ甲府ヲ徇フレバ德川ノ臣属甲府ニアルモノ乃チ脫徒ト謀ヲ合セ山ニ據リ柵ヲ勝沼驛ニ

設ケ以テ官軍ヲ拒ク土州ノ兵關ヲ排シテ其背ヲ衝突ス賊由テ街道ノ橋ヲ撤シ土豚ヲ以テ砲臺ヲ築キ火ヲ村落ニ縱チ以テ官軍ヲ窘ム官軍乃令シテ因土ノ別隊ヲ山ニ登ラシメ左右ヨリ俯擊シ大ニ之ヲ破リ斬獲畧ホ是ニ於テ因土ノ官軍眞田家ヲシテ甲府ヲ守ラシメ江戸ニ向フ○九日山道ノ官軍薩長大垣ノ兵武州羽丹生ニ至リ築田ノ賊兵ヲ攻メテ之ヲ走ラシ進シテ忍城ニ薄ル忍將某腹ヲ屠リテ罪ヲ謝ス一藩因テ歸順王ニ勤ム是ニ於テ山道ノ督將岩倉具綱諸軍ヲ率シテ板橋驛ニ

次ス而シテ總督ノ宮熾仁航シテ駿河ニ至ル時ニ慶喜覺永寺ノ一室ニアリ恐懼罪ヲ俟ツノ論王寺宮之ヲ憫ニ執當覺王院ト偕ニ駿府ニ至リ熾仁ニ見ヘ慶喜ノ為ニ哀ヲ請フ而シテ和官及ヒ天璋院モ各女使ヲ海道ニ馳セシムレハ往還ノ使者項背相望ム既ニシテ海道ノ先鋒品川驛ニ入レハ勝安房守出テ、參謀西鄉隆盛ニ見ヘ具サニ慶喜恭順ノ狀ヲ陳シ征師ヲ弭ント請フ安房守素ヨリ隆盛ノ識ルモノナレハ之ヲ說ク尤力ム隆盛乃チ決ヲ總督宮ニ執ラントス謝罪ノ實ヲ徵ス安房守即チ命

ヲ奉ス是ニ於テ督府會議シ教令ヲ諸軍ニ下ダシ
遂ニ攻撃ヲ輟メ諸道ノ兵ヲ江戸ニ置キ以テ之ヲ
戍ラレム此時容保國ニアリ憂悼措カズ其臣ヲ仙
臺米澤ニ遣ハシ申救ヲ請フ二藩肯セズ會入望ヲ
失ヘルガ脱徒多ク來リ投ズレバ藩論未ダ定ラズ
レヲ小山宇津宮已ニ兵端ヲ開クト云〇二十五日
上議事所ニテ副總裁岩倉具視三職及ヒ公卿諸侯
徴士ヲ列坐セシメ堺港開拓ノ事ヲ策問ス其一箱
館ニ裁判所ヲ置ク事其二同所ノ總督副總督參謀
ヲ選擧スル事其三堺港ノ名ヲ改メ南北二道ヲ立

堺港開拓ヲ策問ス

ツル事時ニ山階宮中御門大納言聲ニ應ジテ曰人
撰ハ大事今急ニ荅フベカラズ越前宰相曰速斷ノ
地ナレバ未ダ之ノ審ニセザレドモ先ツ仙臺侯ヲ
以テ總督ニ充ツル如何肥前中將曰急ニ裁判所ヲ
置キ總督參謀其人ヲ得バ豈ニ開拓スルヲ難カラ
ンヤ大久保一藏曰松浦多氣四郎ヲ撰擧セヨ木戸
準一郎曰開拓ノ基本ヲ立ント欲セバ鍋島侯ノ貴
説ノ如ク撰擧其人ヲ得バ拓地育民隨テ成効セ
ン故ニ人材ノ網羅シ彼地ニ移シ方今其地ヨリ歳
入スル金ヲ以テ其費用ニ給シ聲ク日前ノ利ヲ測

勅使江戸城ニ入リ慶喜水戸ニ屏居ス

ラザレバ開拓ノ効速ニ奏スベシ且其人ハ内山龍助如何是ニ至テ岩倉副總裁又曰魯國ノ應接ハ各國同様ニナスベキヤ準一郎曰隣境ト雖條理上ニ於テ同カルベシ并上石見曰近年岡本文平ナルモノ彼地ヲ經歴スル久シケレバ此人ヲ擇舉スル如何青山小三郎曰土井藩主ハ如何是日万里小路中納言阿波少將溝口孤雲荒尾駿河以下參與徴士十數名モ坐ニアレドモ皆其所見ナキヲ答フ○四月四日勅使江戸城ニ入ル德川ノ臣屬道ヲ掃ヲテ盛服之ヲ迎ヘ田安中納言之ニ接ス勅使詔ヲ宣ヘテ曰

結城藩小幡兵馬等大義ヲ唱フ

宜ク江城及ヒ軍艦銃砲ヲ献ズベシ曰慶喜ノ逆ヲ助クルモノ特ニ死一等ヲ宥ス宜ク斷案シテ罪ヲ奏スベシ曰慶喜ノ死一等ヲ假ス宜ク水戸ニ屏居スベシ中納言即チ命ヲ奉ズ居ル三日慶喜退テ水戸ニ入ル而シテ激徒等事ヲ聞キ平ナル能ハズ相率ヒテ益東北ニ走リ大鳥圭介古屋作左衛門秋月登助土方歳三等ヲ推シテ將トナシ總野ノ間ニ横行シ所在ノ諸侯及ヒ豪富ヲ諭シ軍須ヲ募リ下妻下舘等ニ說チ皆之ヲ脅從ス結城ノ城主水野日向守モ之ニ應ス其臣小幡兵馬以下六十人大義ヲ唱

流川ノ役官軍賊将近藤勇ヲ執フ

ヘ其嗣子ヲ奉シテ日向守以下ヲ逐フ既ニシテ日向守脱兵ニ將トシテ城ニ薄リ小幡等ヲ殺シテ復タ城ヲ取ル賊勢甚ダ鋭ナリ嗣子某走テ官軍ニ投ス此時賊將大鳥等彦根以下諸藩ノ官軍宇都宮ニアリト聞キ勢ニ乗シ之ヲ取ントス急報板橋ニ至ル參謀香川敬藏及ヒ薩將有馬某長將祖式某土將上田某等直チニ兵三百ヲ率ヒテ宇都宮ヲ援ケント千住ニ抵ル偶賊ノ別將流山ニ屯スレバ香川等即チ擊ツテ之ヲ走ラレ賊將近藤勇ヲ捕ヘ板橋ニ檻送シ新ヲ以テ軍門ニ徇ヘ首級ヲ醢シテ京師ニ送

勇ノ小傳

リ四條磧ニ梟ス勇素ヨリ驍勇ヲ以テ著ル丁卯ノ冬德川氏ノ大坂ニ退ク勇諸軍ヲ率ヒ伏見ニ殿シ遂ニ伏見ニ止リ官軍ノ往來ヲ沮ム師起ルニ及ヒ諸軍ヲ指揮シ銃其股ヲ傷ク東軍敗ル、ニ及ヒ共ニ江戸ニ走リ德川ノ臣屬ヲ煽動シ相率テ甲州ニ趨キ地方ノ兵ヲ合セ土因ノ兵ヲ勝沼驛ニ防ク戦ヒ敗レ部下ヲ率ヒ江戸近傍ニ走リ此ニ至テ逮ニ就キ梟首セラル蓋シ近年京師ニアリ主トシテ會藩ノ謀議ニ與カレバナリ斯クテ流山ノ賊已ニ平キ香川祖式等勝ニ乗シ遂ニ下野ニ抵リ結城ヲ攻

小山ノ兵

ム城兵忽チ日向守ヲ擁シ城ヲ奔チ、走ル祖式乃チ須坂藩ノ兵ヲ率ヒ結城ヲ守リ香川等彦根ノ兵ヲ以テ宇都宮ニ至ル既ニシテ賊将圭介等復タ結城ヲ陥レ之ニ據レバ官軍宇都宮ニ走ル○十七日圭介兵二千ヲ率ヒ出デ、小山驛ニ戦ヒ小隊ヲ布散シ夜根舘林宮間ノ官軍ヲ狙撃シテ之ヲ破ル長将南部某館林ノ将石川某等之ニ死ス是ニ於テ官軍抗スル能ハズ宇都宮ニ退キ圭介等打木驛ニ次ス此役彦根ノ兵死傷尤衆シ○十九日昧爽賊将秋月登助土方歳三等純義団天傳習三隊ヲ率ヒテ宇都宮ヲ襲フ官軍松本黒羽根笠間壬生土岐岩村田須坂彦根大垣宇都宮ノ兵之ヲ城外ニ拒ク二将死ヲ冒シテ挺前ス官軍退テ城内ニ入ル時ニ圭介ノ率ユル傳習隊鹿沼ヨリ出デ、横ニ之ヲ撃ツ偶會藩モ亦三王嶺ヨリ進ミ齊ク城ニ薄ル砲聲天ニ震ヒ火城下ニ起ル官軍遂ニ守ル能ハズ城ヲ棄テ、走ル城主戸田越前守錦林ニ投ズ是ヨリ先ニ板倉伊賀彦根ノ兵ニ因リ降テ城中ニアレバ是ニ於テ賊兵之ヲ奪ヒ宇都宮全ク賊兵ノ有トナル圭介善ク兵ヲ用ヒ操縦自在臂ノ指ヲ使フガ如ノ部下精

宇都宮賊有トナル
賊將大鳥圭介等ノ兵ヲ用ユ

鋭佛人ニ就テ傳習スルモノ多ケレバ向フ所官軍ヲ窘ム官軍戎ハ圭介ヲ猶レ隠然一敵國トナス○二十日誠忠純義四天三隊岩井坊ヨリ出デ、關宿ヲ襲フ官軍伏ヲ設ケテ之ヲ破ル賊兵屈セズ屍ヲ踏ンテ奮戦ス殺傷相當ル官軍別ニ其背ヲ衝テ遂ニ之ヲ走ラシ石坂周藏ヲシテ急ニ馳セテ其走ルヲ追ヒ説テ之ヲ降サシレム誠忠隊降リ純義隊守都宮ニ投ス初小山武井ノ役ヨリ輿羽ノ諸藩往々歸順スル而シテ其兵概ネ甲ヲ擐キ槍ヲ揮フ故ニ戦多ク利アラズ警救攄及ヒ江戸ニ報ズ朝廷乃チ薩長

土因垣ニ命シテ之ヲ援ケシム五藩ノ兵直チニ途ニ上リ壬生ニ至リ諸藩ト合フ○二十二日昧爽官軍大擧シテ宇都宮ヲ攻ム傳習七聯御料草風四天五隊城ヲ出ル里許ニシテ之ヲ安塚ニ邀ヘ撃チ又別隊ヲシテ山路ヨリ薩垣ノ後ヲ襲ハシム飛丸雨注官軍殆ド敗ル時ニ薩垣ノ別軍雀宮驛ヨリ馳來リ之ヲ援クレバ官軍ノ勢復タ振ヒ遂ニ賊兵ヲ走ラス賊兵乃チ退テ城内ニ入ル兵ヲ分ツテ明神八幡ノ二山ヲ扼ス○二十三日官軍大擧宇都宮ヲ環リ攻ム城中堅守敢テ屈セズ兩軍ノ砲聲十里ニ轟

河田佐久馬ノ勇武記傳

キ砲煙天ヲ衝キ殆ド人色ヲ辨ゼズ時ニ會人刀ヲ揮フテ挺前擊撗刺擊スレバ官軍為ニ殪サルモノ甚タ衆シ因州ノ將河田佐久馬之ヲ見テ憙テ曰叢爾タル流賊多タ我兵士ヲ殪ス宜ク日未タ沒セザルニ及ンデ賊ヲ殲シ城ヲ取ラン諸君努力セヨト咄嗟衆ヲ鼓ス因州ノ兵為ニ奮ヒ殊死空濠ノ濟リ城陣ニ登リ其一角ヲ拔キ賊ヲ殪ス無算此時諸軍ノ攻擊モ亦益烈シケレバ賊軍魚潰レ終ニ圍ヲ衝キ脫レテ日光ニ走ル是ニ於テ官軍遂ニ宇都宮城ヲ復シテ日全タ晩ル既ニレテ圭介等日光近傍ニ

官軍宇都宮ヲ復ス

圭介兵ヲ率ヒテ會津ニ赴ク

出没シ屢兵ヲ出ダス土州ノ兵之ヲ今市ニ擊チ迭ニ勝敗アリケルガ遂ニ大ニ之ヲ破ル圭介乃チ現兵數百ヲ率ヒ會津ニ投ス○二十五日古屋作左衛門兵ヲ率ヒテ信州飯山ヲ襲ヒ火ヲ城下ニ縱ツ飯山ノ人苦戰之ヲ卻ク是ヨリ先ニ德川ノ脫徒上總ノ木更津ニ據リ盛ニ糧仗ヲ峙ツノ總督官諸軍ニ命シテ之ヲ擊タシムレバ脫徒乃チ遨ヘ戰ハントシテ船橋ニ向フ是ニ於テ備前ノ兵ハ八幡ニ陣シ藤堂ハ貝塚ニアリ筑前ハ行德ニアリ佐土原ハ鎌ケ谷ニアリ之ニ備フ是月帝京師ニ還幸ス○閏四

諸軍大ニ船橋ノ賊兵ニ備フ

京師ニ還幸アリ

月十一日賊兵八幡貝塚ヲ襲フ備前藤堂ノ兵倉皇出ダス所ヲ知ラズ且戦ヒ且卻ク賊兵勝ニ乗シ追尾シテ市川ノ渡口ニ至ル官軍舟ヲ挙テ溺死スルモノ甚多シ佐土原ノ兵砲聲ヲ聞キ之ヲ援ケントス猝カニ鎌ケ谷ヲ發スレバ賊ノ別軍已ニ之ヲ途ニ要ス佐土原ノ兵即チ身ヲ麥田ニ潜ミ散兵ヲ以テ之ヲ狙撃シ賊ヲ殲ス無數因テ白砲ヲ發シ殘兵ヲ走ラス此時賊兵八幡貝塚ノ官軍ヲ破リ退キテ舟橋ニ舎シ飛ヲ傳フ佐土原ノ兵偵テ之ヲ知リ水陸三道ヨリ舟橋ヲ襲フ偶筑前藤堂備前ノ兵反シ戦ヒ

佐土原藩ノ武姿ヲ顯ル

ヒ共ニ火ヲ舟橋ニ縱ツテ之ヲ燬ク烟焔天ニ漲リ賊兵潰走ス後ノ三日上總盡ク平ク此月關東監察使三條左大將實美詔ヲ奉シテ江戸ニ至リ田安亀之助ヲシテ宗家ヲ紹カシムル時ニ亀之助年尚幼ナレバ松平確堂ニ命シテ事ヲ攝セシムト蓋シ徳川氏罪ヲ謝シ信ヲ表スレバナリ然レドモ封額未ダ定ヲザレバ臣属等危疑措カズ初勝安房守ノ官軍ニ説クヤ激徒之ヲ怒リ安房ヲ刺シ下圖ル其城地兵仗ヲ納ルヽニ及レデ益奮激シ藉ヲ脱シ黨ヲ結ヒ上野寛永寺ニ拠ル

彰義隊蜂激上野寛永寺ニ拠ル

レテ事ヲ擧レントス執當覺王院之ヲ諫ムレ
知ルモノトナシ私ニ近日ノ朝旨ヲ議シ宮ニ勸メ
テ脱徒ヲ納ル而シテ會津庄内諸藩モ遙ニ之カ聲
援ヲナナセバ其勢大ニ張リ益兵士ヲ招キ甲ヲ繕フ
是ニ於テ脱徒ノ戰ヒ敗レテ伏匿スルモノ若クハ
奴僕ノ主領ヲ失フモノ相傳ヘテ之ニ投シ一時ニ
ヲ餬ス斯クテ瓦合烏集復タ紀律ナケレバ其游歩
スル長劒ヲ帶ヒ高屐ヲ著ケ踞傲無頼務ニ威柄ニ
張ル時ニ官軍皆錦旗ヲ衣ニ縫ヒ以テ標章トナフ
都人竊カニ之ヲ嘲リ呼テ錦切レト言フ讃義隊之

瓦合ノ兵復ノ紀律ナシ

錦切レ

白川城陥ル

ニ途ニ遇ヘハ則罵詈百端或ハ之ヲ殺ス故ニ都人
皆其威風ヲ畏ル彰義隊願ル得色アリ官軍憤懣止
マズ奏シテ之ヲ誅センコト請フ〇二十日賊兵百餘
白川城ヲ襲ヒ火ヲ城下ニ縱チ三面ヨリ入リ濠ヲ
踰エ城ニ薄ス城兵支ヘズ火ヲ城ニ縱チ後門ヨリ
走ル二本松藩士之ニ殿ス賊兵乃チ城中ニ入リ大
砲糧仗ヲ奪フ〇二十一日官軍伏ヲ設ケテ賊兵ヲ
鹽崎村ニ破ル〇二十二日又之ヲ百村ニ破リ追尾
シテ板室ニ至リ小笠原新太ヲ斃ス是ヨリ先ニ伊
達慶邦上杉齊憲皆征討ノ命ヲ受テ兵ヲ會津國境

仙臺米澤使ヲ遣ハシ容保ヲ諭ス

與羽諸藩響應セザルヲ得ズ

秋田保ヲ說ケントス

ニ進ハ既ニシテ慶邦其臣玉蟲左太夫等ヲ會津ニ遣ハシ容保ニ說キ以テ罪ヲ謝セシム齊憲モ亦片山仁一郎ヲシテ之ヲ說カシム是時ニ當リ會津征討ノ督將九條左大臣醍醐大納言澤三位薩長二藩ノ兵ヲ率ヒ道ヲ分チ出テ奥羽ニアリ東北ノ諸藩ヲ指揮スル然レ𪜈諸藩往々危疑スレバ號令行ハレズ獨秋田津輕生駒等ノ兵一意歸順スル而シテ庄内藩傲强服セズ兵ヲ出ダシテ新庄天童ヲ略シ屢秋田ト戰フテ之ヲ破リ終ニ德川ノ脫徒及ヒ仙臺ノ脫兵ト共ニ秋田ノ國境ニ入リ城下ニ逼ル秋田將ヲ

仙臺米澤使ヲ遣ハシ容保ヲ諭ス

與羽諸藩響應セザルヲ得ズ

秋田保ヲ說ケントス

ニ保タザラントス急ノ督府ニ訴フ偶九條醍醐兩家仙臺ニアリ參謀世良修藏大山格助之ニ從フ時ニ慶邦齊憲等檄ヲ傳ヘテ奥羽諸藩ヲ召ス南部二本松三春等十藩之ニ會ス會津モ亦梶原景武ヲシテ來ラシメ慶邦齊憲ニ因テ罪ヲ謝シ首謀ヲ誅シテ以テ信ヲ表セントス請フ慶邦齊憲等乃チ牛耳ヲ執リ盟ヲ會藩ヲ宥シ兵事ヲ戰シト連署督府九條家ニ請フ督府或ハ之ヲ許サントス欲ス衆謀等曰會藩誠ニ罪ヲ謝スレバ宜ク城地兵仗ヲ納レ以テ其實ヲ表スベキニ却テ威ニ守備ヲナシ隣境ヲ侵掠

仙臺米澤使ヲ遣ハシ容保ヲ諭ス

與羽諸藩響應セザルヲ得ズ

秋田保ヲ說ケントス

參謀ノ明斷

シ王師ニ抗ス然カレテ今乃チ書ヲ上リ哀ヲ乞フ謝罪ノ道何ソニ在ルト即チ仙臺以下諸藩ノ窃ニ會藩ヲ援ノヲ詰リ書ヲ却ケ之ヲ絶チ兵ヲ促カシ會津ヲ討セシム仙臺米澤諸藩士服セズ怒テ曰督將言ヲ納レテ參謀等之ヲ汎ム是レ朝威ヲ挾ミ以テ私意ヲ逞フスルナリト遂ニ世良ヲ斬リ其罪狀ヲ徇ヘ以テ南部諸藩ヲ煽動ス是ニ於テ奥羽連衡シ會津ヲ援ハント同盟スルモノ十有七藩遠近騒然タリ九條家以下即チ仙臺ヲ去リ盛岡ニ入ノ盛岡モ亦既ニ連衡スレバ衛士九條家以下ヲ奉ジテ

（参謀世良氏斬ル）
（奥羽十七藩連衡シ官軍ニ抗ス）

秋田ニ投ジ間使ヲ發シテ急ヲ江戸ニ報ス朝廷大ニ驚キ仙臺以下諸藩主ノ官爵ヲ削リ追討ノ令ヲ下ダシ益兵ヲ奥羽ニ進ム此時總督宮及ビ監察使三條實美詔ヲ徳川家ニ傳ヘ東台ノ兵ヲ散解セシム彰義隊肯セズ朝議乃チ輪王寺宮ヲ召シ之ヲ諭サシメントス覺王院又拒テ遣ラズ是ヨリ先ニ官軍既ニ道ヲ分ツテ會津ニ向フ薩長加賀尾張越前松代松本諸藩越後ヨリ進ミ薩長ノ別隊大垣諸藩白川ヨリ進ム○五月朔日睦奥薩長忍大垣ノ官軍兵ヲ分ツテ三道ヨリ白川城ヲ攻ム時ニ會津ノ兵

（仙臺以下諸藩主官爵ヲ削ル）
（彰義隊朔日ヲ奉セズ）
（官軍既ニ會津ニ向フ）

官軍白川城ヲ陥ル

黒川道ヲ守リ純義新撰二隊ハ江戸道ヲ守リ仙臺棚倉ハ棚倉道ヲ守リ之ヲ拒ク而シテ三道ノ戦正ニ酣ナルヤ棚倉道先ツ敗レ尋テ二道ノ賊モ皆敗ル官軍勢ニ乗シテ城下ニ望入ス賊ノ殘兵伏ヲ弃テヽ走ル此役斬獲六百八十餘人會將横山主税之ニ死シ西郷頼母屋ニ免レ海老名右門自盡ス是ニ於テ白川城官軍ノ取ル所トナル白川道ハ奥羽ノ要衝ニテ途八方ニ通ス故ニ先ツ之ニ據レバ攻守両ナガラ便ナルヲ以テ両軍大ニ之ヲ爭フト云ヘリ出デヽ太田原ヲ襲ヒ之ヲ抜キ火ヲ城下ニ縱ツ城主大田原飛弾守已ニ逃ル然カモ賊モ亦兵士少ケレバ之ヲ守ラズ城ヲ弃テヽ去ル此時朝廷遂ニ彰義隊追討ノ令ヲ下ダス參謀大村益次郎帷幕ニアリ諸軍ノ向フ所ヲ部署ス薩州肥後因州ハ湯島ヨリ長州肥前筑後大村佐土原ハ本郷ヨリ進ミ備前藤堂阿州尾州紀州藝州筑前等ノ兵各向フ所アリ○十四日彰義隊數百人夜ニ乗シ隊ヲ脱シテ走ル蓋シ追討ノ令下ダルヲ聞ケバナリ○十五日昧爽官軍齊ク東台ニ逼ル賊兵各酒ヲ被リ鋭意門ヲ啓テ衝突ス官軍卻テ廣小

彰義隊追討ノ令下ル

上野ノ役

輪王ノ炎炬トナル

路ニ陣ス適風雨烈シケレバ官軍乗シテ大熕ヲ發シ黒門ノ一角ヲ破リ賊兵ヲ走ラス覺王院等狼狽輪王寺宮ヲ奉シ間道ヨリ廮ニ身ヲ脱シ市中ニ潜匿ス時ニ賊ノ別隊山王山ニアリ俯シテ官軍ヲ撃ツ薩州ノ兵乃チ樹ノ攀チ仰テ之ニ向フ賊ノ彈丸雨注殪サル、モノ無數然カモ薩兵確乎撓マズ益兵ヲ繼キ遂ニ山上ノ賊兵ヲ走ラス是ニ於テ賊兵山内ノ枷欄ニ據ル官軍乃チ火ヲ縱ツテ之ヲ破リ其脱兵ヲ根津團子坂ニ要撃シ斬獲之ヲ殲ス此役上野近傍市街槩ネ兵燹ニ罹リ枷欄ノ火益熾ンニ

林昌之助函関ヲ扼ス

小田原藩降伏ス關八州畧定ル

烟焔天ヲ衝キ夜二更ニ至リ火始テ滅ス是ヨリ錦切レノ威江戸ニ震フ是ヨリ先ニ林昌之助奏シテ其邑ヲ献シ以テ徳川ニ臣屬タランコト請フ既ニシテ脱兵ト謀リ兵數百ヲ率ヒ去テ函根ニ據ル督府議シテ監軍中井某三雲某ヲ小田原ニ遣リ其藩兵ヲ以テ之ヲ討セシム時ニ小田原藩私ニ昌之助ヲ援クレバ直チニ中井ヲ殺シ三雲ヲ逐フ督府即チ諸軍ヲ小田原ニ向ケ罪ヲ問フ小田原藩畏縮首謀ヲ刑シ殘黨ヲ討シ以テ哀ヲ請フ朝議由テ小田原ノ封ヲ削リ罪ヲ許ス是ニ於テ關八州畧定ル此月

長岡ノ役

朝廷特旨ヲ以テ徳川氏ノ遺臣ヲ収録セシト事ヲ
徳川家ニ傳フ是ヨリ徳川ノ臣属歸順スルヿノ甚
タ衆シ是時水戸ノ姦黨市川某朝比奈某等其藩兵
四百ヲ率ヒ越後口ノ賊軍ニ投ス賊軍長岡小千谷
等ノ地ニ據リ其勢日ニ熾ナリ官軍乃チ小千谷ヲ
襲ヒ之ヲ破リ兵ヲ分ツテ要衝ヲ扼シ信濃川ヲ隔
テヽ陣ス別軍榎嶺妙見道金倉山ヲ守ル榎嶺最モ
險阻ナリ川ヲ左ニシ山ヲ右ニシ長岡ノ要路タリ
初賊軍之ニアリ尾張松代ノ兵撃ツテ之ヲ走ラシ
四方ノ官軍遂ニ長岡ヲ環攻ス迭ニ勝敗アリ居ル

官軍長岡城ヲ取ル

十日賊大擧シテ妙見道榎嶺ヲ圍ミ河東ノ援路
ヲ絶ツ官軍孤立計ノ出ス所ナシ忝謀黒田了以山
縣狂介河東ノ精兵ヲ擇ヒ其腹背ヲ衝ク而シテ隊
將三好軍太郎堀潜太郎竹田十左衛門長州高田ノ
兵二百ヲ率ヒ曉霧ニ乗シ枚ヲ銜テ筑摩川ヲ濟ル
適霖雨河水漲レバ舟殆ド覆ヘケルガ壓ニ前岸ニ
達シ直チニ賊壘ヲ侵ス賊狼狽守ヲ棄テヽ走ル斬
獲數十大砲ヲ奪フ而シテ薩人三百許リ植下村ヨ
リ濟レバ諸軍踵テ至リ榎嶺妙見ノ官軍モ亦之ニ
會シ歩騎齊ク進ム賊兵城ヲ燔キ城主牧野備前守

官軍大舉白川ヲ拠ス

ヲ擁シ間行シテ掾尾ニ入ル午牌官軍長岡城ヲ取ル尋テ備前守會津ニ投ス○六月十二日會藩白川ヲ襲フ官軍之ヲ和田山ニ撃ツテ其將遠山某ヲ殪ス是ヨリ先ニ小田原ノ役ニ游撃隊百餘長崎艦ニ乗リ岩城ニ走ル官艦追尾平潟ニ至リ陸ニ上ル○十六日仙臺岩城等ノ兵官軍ヲ平潟ニ撃ツテ之ヲ破ル○二十日賊兵新田村ヨリ出デ、植田村ヲ襲ヒ官軍ヲ破ル時ニ官軍大舉白川城ニアリ要衝ヲ扼シ將ニ會津ヲ討タントス而シテ棚倉平泉ノ諸城未ダ下ラズ○二十四日昧爽官軍兵ヲ分ツテ一

棚倉城陥ル

輪王寺宮会津ヨリ仙臺ニ走ル

ハ畑澤ヨリ進ミ一ハ本道ヨリ進ミ卿户ニ戦フテ賊兵ヲ破リ棚倉城ヲ抜ク城主阿部播摩守須賀川ニ走ル○二十八日官軍進ンデ平泉城ヲ抜ク賊ノ敗兵湯長谷小名濱ニ走ル官軍水陸尾撃シ遂ニ湯長谷城ヲ陥ル是ニ於テ賊兵復タ走テ平城ニ萃ル是ヨリ先ニ輪王寺宮會津ニ至ル叛倉伊賀小笠原壹岐等亦之ニアリ尋テ輪王寺宮仙臺ニ至ル○七月朔昧爽官軍平城ヲ襲フ米澤ノ兵撃テ之ヲ卻ク○五日笠間ノ兵二百許リ官軍ノ為ニ壁屋ヲ守レルガ賊ノ敗ル所トナリ大砲糧仗ヲ失フ北時官軍

賊兵倭銃ヲ用ヒテ捷利ヲ失フ

平城ヲ攻メント參謀河内某佐久間某等諸軍ヲ部署ス因州備前柳川佐土原ハ湯本道ニ向ヒ柳川ノ別軍ト薩長大村ト小名濱道ニ向フ○十三日黎明諸軍平城ニ薄ル賊兵城ヲ出ツル二里土豚ヲ以テ砲壘ヲ築キ之ヲ拒ク因備柳川ノ兵擊ツテ之ヲ走ラシ直チニ城下ニ逼ル賊兵乃チ關ヲ城外ニ設ケ銃ヲ聯子テ發ス而シテ多ク倭銃ヲ用ユレバ風雨ニ會フテ射ル能ハズ官軍奮鬪關ヲ破リ外郭ヲ抜キ橋ヲ夾ンテ砲擊ス砲聲天ニ震ヒ山嶽為ニ崩ル柳川ノ兵百五十人潛カニ橋架ニ緣リ挺前シ其右翼ヲ衝ク是ニ於テ橋上ノ軍モ亦齊ク前ム賊兵拔靡退テ牙城ニ入ル時ニ官軍モ頗ル倦ル、ヲ以テ敢テ進マズ退テ城外ニ息フ夜三鼓牙城火起ル官軍乃チ急ニ城ニ登ル售兵ヲ見ズ蓋シ昨日ノ戰ニ彈丸已ニ竭クレバ自ラ支ヘザルヲ知リ城ヲ燔テ東ニ走ル是ニ於テ官軍平城ヲ取リ近傍ヲ徇フ平城最モ險ニシテ守リ易ク攻メ難シ此役官軍死傷當ニ過ク○二十一日官軍二本松城ヲ陷ル城主丹羽左京大夫米澤ニ走ル○二十三日賊兵火ヲ縱ツテ須賀川ノ官軍ヲ襲フ是時ニ當リ會津征討ノ總

平城官軍ノ有トナル

督仁和寺宮越後ヨリ出ツ西園寺中納言壬生左衛
門権佐之ニ従フ時ニ官軍長岡ニ援リ要害ヲ扼ス
而シテ徳川ノ脱徒及會津米澤長岡ノ兵寨ヲ列子
ヲ相持シ連戦未タ決セズ〇二十四日官軍賊寨ヲ
破リ直チニ會津ニ向ハントス欲シ乃チ其闇ヲ所ヲ
極ム此時新發田已ニ官軍ニ属スレバ別将ヲシテ
兵ヲ分チ之ヲ援クシメ諸軍明旦ヲ待ヲ戦ハント
ス長岡ノ将河合継助偵テ之ヲ知リ死士五百ヲ率
ヒ人毎ニ一日ノ糧ヲ齎ラシ日暮八町沖ヲ経テ兵
ヲ潜メ官軍列塞ノ間ヲ過キ直チニ長岡城ニ薄リ

火ヲ市壘ニ縱ツ官軍城中ニアリ砲聲ヲ聞テ以テ
我兵進撃ノ號トナス而シテ聲漸ク近ツク細作忽
チ賊來リ襲フト報ス官軍大ニ驚キ一軍色ヲ失ヲ
初賊兵ノ來リ襲ハンヤト人ルヤ火ヲ擧ケテ號ヲナ
サントス約スレバ火三所ニ起ル寨中ノ賊之ヲ望見
レ万砲齊ク發ス河合等勢ニ乗レ挺前ス官軍苦戦一
殆ド敗ルヽ而レテ天已ニ明ク會津ノ將佐川某米澤ノ
將千坂某等相議レテ曰河合孤軍ヲ以テ深ク敵中
ニ入ル急ニ之ヲ援ハズンバ皆敵ニ餧セント即チ
起テ大黒寨ヲ衝キ或ハ坐レ或伏レ銃丸亂發レテ

戰車大捷復二長岡城一ヲ取ル

參謀山縣狂介ノ奮戰

官軍ノ背ヲ襲ヒ火ヲ縱ッテ之ニ來レ河合ト官軍ヲ騎角シ大ニ之ヲ破リ北クルヲ逐ヒ首ヲ斬ル亡等遂ニ長岡城ヲ復ス○二十六日官軍一ハ榎嶺妙見坂ニ屯シ一ハ信濃川ノ西南ニ屯シ寨ヲ河岸ニ築ク而シテ米澤會津ノ兵大擧川ヲ濟リ之ニ逼ル官軍或ハ曰兵ヲ三國嶺ニ卻ケ銳ヲ避ケ情ヲ擊ツニ若カズ參謀山縣狂介曰我軍令一步ヲ退ケバ勢ヲ失ヒ一步ヲ進メバ敵ヲ得ル豈ニ一挫折ヲ以テ軍機ヲ失フベケンヤ且東道ノ官軍白川ニ據ル地方ヲ畧シ奥羽ニ至入スト聞ク願フニ奴輩後ヲ顧

官軍長岡城ヲ復ス

ヲ久ヲ持スル能ハズ且渠レ勝ニ狃レテ稍懈ル一舉シテ取ルベシ諸軍之ヲ勉メヨ○二十九日昧爽官軍大霧ニ乘シ妙見ヨリ出デ、人ヲ遣シ賊營ヲ謀セシム果シテ皆假臥ス是ニ於テ官軍直チニ進ミ刀ヲ揮ヒテ縱橫刺擊ス殺獲數十小銃ヲ亂發ス賊兵潰亂出ズ所ヲ知ラズ官軍乃チ吶喊火ヲ四方ニ縱チ直チニ長岡ニ逼ル砲聲地ニ振フ賊辟易守ヲ棄テ、走ル官軍遂ニ長岡城ヲ復ス初官軍ノ長岡ヲ取ルヤ市民常ニ賊軍ニ通ジ日ニ官軍ノ情實ヲ輸タセバ是ニ至チ官軍其賊ニ通ズルモノヲ

捕ヘ斬テ軍門ニ徇フ長岡城五月ヨリ是ニ至ルマデ屢兵燹ニ罹リ城閭市街延焼畧盡キ蕩然荒野ト
ナル時ニ官軍ノ艘スルモノ已ニ松崎ニ至リ進ン
デ新發田城ニ據リ連リニ水原新潟ヲ陷レ勢破竹
ノ如シ米澤ノ將上杉主水千坂某會津ノ將佐川宮
見附ニ會議シテ曰敵新發田ニ據リ我糧道ヲ絶タ
ハ則腹背敵ヲ受ケン而シテ今我兵寡ケレバ分
ツニ足ラズ今ノ計ヲ為スニ河西軍ヲ河東ニ徙シ
退テ信濃川ヲ扼シ兵ヲ若松米澤ニ出ダシ新發田

ヲ討ツニアルノミ米澤人曰川ヲ濟リ與板ヲ抜キ
而シテ後之ヲ徙ス未ダ晩カラザルナリ是ニ於テ
會津庄内米澤各使ヲ發シテ急ヲ告ク是月詔シテ
江戸ヲ改稱シテ東京ト曰フ是ヨリ先ニ奥羽同盟
ノ諸藩輪王寺宮及ビ覺王院等ノ仙臺ニアルヲ以
テ益勢ヲ得官軍ト絶ツ而シテ南部庄内ノ兵日ニ
秋田ヲ蹙シテ城下ニ逼ル秋田孤立敗没且夕ニア
リ既ニシテ薩州土州佐賀島原平戸ノ官兵來テ秋
田ヲ援ヒ南部庄内ヲ討シ侵地ヲ復シ官軍大ニ振
ヒ傍近隨フテ定ル初九條家以下ノ敵地ニアル流

離瓚尾頗ル艱苦ヲ極メルガ是ニ至テ衆皆再生ノ
思ヲナス是時ニ當リ諸道ノ官軍モ日ヲ逐フテ深
ク敵地ニ入ル二本松既ニ陥リ中村三春等歸順ス
而レテ仙臺南部米澤庄内尚屹然之ニ抗ス官軍奮
戰仙臺ノ駒峯ヲ取リ兵ヲ分ツテ四藩ヲ討ツ○八
月米澤ノ兵越後口ニ戍スルモノ將ニ守ヲ撤レテ
國ニ就カント先鋒已ニ八十里越ヲ過ク會津衆名
長岡ノ人之ヲ途ニ要シテ曰貴藩守ヲ撤スレバ則
我軍孤ニシテ河西ノ兵悉ク敵ニ餧セン米澤ノ將
千坂某曰聞ク東方同盟ノ諸藩累リニ陥リ敵將ニ

仙未南庄内尚屹然之ニ抗ス官軍奮

米澤ノ兵越後口ノ戍ヲ撤ス

米澤ニ入ントス故ニ我君命ヲ傳ヘテ越後ノ兵ヲ
問ヘレ以テ國境ヲ守ラレノ先鋒已ニ旋ル奈何ト
セスベカラズ嘗ニ警ヲ河西ニ報レ其途ニ上ルヲ
約ス度ルニ已ニ東セン既ニシテ河西ノ軍代殿シ
テ卻キ加茂ニ次ス蓋シ米澤人勢ノ支ヘザルヲ知
テ歸順ノ意已ニ決スト云此時詔シテ加陽宮朝仁
ノ位官ヲ奪フ初德川慶喜ノ東スル朝仁窃ニ聲息
ヲ關東ニ通スト而レテ慶喜之ヲ卻ク是ニ至テ事覺
ハレ安藝ニ謫セラルル加陽宮ハ故ノ尹ノ宮尊融ナ
リ時ニ慶喜水戸ニ居ル流言アリ舊臣將ニ慶喜ヲ

米澤入貢順ノ意決ス

朝廷加陽宮ノ位官ヲ奪フ

奪ヒ去ラントス慶喜變アルヲ恐レ奏シテ駿河ニ
徙ラント請フ朝廷乃チ之ヲ許ルセバ是ニ於テ慶
喜徙テ駿河靜岡ニ屏居ス

近世事情巻之五　終